「個別点検」 1-1 遠方監視制御装置(監視制御装置/被監視制御装置)

					点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1 ケ	2 ケ	3 5	6 4	12 ケ	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
			日	月	月	月	ク 月	ク 月				
1	表示の確認	監視制御装置の装置警報表示及び監視項目表示が正常に表示 されていることを確認する。	0							装置の正常動作の確認		
2	電源電圧の確認	装置内蔵の電圧測定機能または外部テスタにより測定する。						0	テスタ	標準値(規定値)との照合 測定結果の変化傾向の把握		
3	送受信レベル確認	OW レベル及び監視制御信号レベルを測定し、基準値±0.5dB以内に調整する。						0	レベルメータ			
4	監視制御動作の確認	監視制御装置より、被監視制御装置に対し制御指示を行い、機器の状態変化により、装置が正常に動作している事を確認する。 制御操作→ 監視制御装置 監視確認 機器 横器 被監視制御装置 大変出力 被監視制御装置 監視確認 監視確認 と 機器 が変出力 は 大変出力 と 監視確認 と と と と と と と と と と と と と と と と と と と						0		制御項目と連動監視機能及び警報機能の確認		
5	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態の確認をする。						0		装置の正常動作の維持		
6	機器本体の清掃等	装置外面の清掃及び装置固定金具の緩みの確認をする。						0		周囲環境を考慮した機能維持		
7	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え		
		予備品の保管状態・数量等を確認する。						0				

「個別点検」 1-2 専用通信網監視制御装置(監視制御装置/被監視制御装置)

					点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	表示の確認	監視制御装置及び被監視制御の装置警報表示及び監視項目表示が正常に表示されていることを確認する。 監視項目においては、監視制御装置(メンテナンスツール)と被監視制御装置(試験器)との整合性を確認する。	0							装置の正常動作の確認		
2	電源電圧の確認	装置内蔵の電圧測定機能または外部テスタにより測定を行い、 基準値に調整する。						0	テスタ	標準値(規定値)との照合 測定結果の変化傾向の把握		
3	監視制御動作の確認	監視制御装置(メンテナンスツール)より、被監視制御装置に対し制御指示を行い、機器の状態変化により、装置が正常に動作していることを確認する。 制御操作→ 監視制御装置						0		制御項目と連動監視機能及び警報機能の確認		
4	メンテナンスツール の確認	自己診断プログラムによる動作確認をする。 メンテナンスツールの現在時刻の確認を行い必要に応じ修正 する。						0	自己診断プログラ ム	装置の正常動作の確保		
5	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態の確認をする。						0				
6	機器本体 (メンテナン スツール) の清掃	装置外面の清掃及び装置固定金具の緩みの確認をする。 メンテナンスツール本体及び周辺機器の清掃をする。						0	クリーニンク [*] フロッヒ [°] ィ	周囲環境を考慮した機能維持		
7	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え		
		予備品の保管状態・数量等を確認する。						0				

「個別点検」 2-1 超短波無線電話装置 (FX・FB) (トンネル無線補助設備を含む)

	13,1111115	2 1 危巡	皮無線電話装置(F X・F B)(トン不ル無線補助設備を含む)			占給	周期					
No.	確認事	事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	が 2 ケ 月	3 ケ	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	電源電圧	の確認	自蔵の計器またはテスタにより測定する。						0	テスタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	送信周波	数確認	周波数計により測定し基準値(±5×10 ⁻⁶)以内であることを確認する。						0	周波数カウンタ	測定結果の変化傾向の把握	60M/150M に適用する。 400M は基準値(±3×10 ⁻⁶)と なる。
3	送信出力	確認	定格電源電圧で送信部出力端子において、指定出力±10%以内であることを確認する。						0	高周波電力計		定在波測定が可能な通過形電 力計とする。
4	スプリア 確認	アス幅射強度	スプリアス(nf ₀)幅射強度を測定し帯域内 80dB 以下、帯域外 60dB 以下を確認する。 (f ₀ :原振周波数、高周波次数)						0	スペクトラムアナ ライザ		60M/150M に適用する。 400M はスプリアス幅射強度が 2.5μW 以下である事を確認す る。
5	最大周波	数偏移確認	許容偏移以内(±5KHz)であることを確認する。 変調周波数は 1KHz とする。						0	直線検波器、低周波 発振器		60M/150M に適用する。 400M は許容偏移±2.5KHz とな る。
6	20dB 雑刊 認	音抑圧感度確	入力電圧感度が 2dBμV以下であることを確認する。						0	標準信号発生器、レ ベル計		
7	スケルチ	感度確認	標準信号発生器により測定する。 Ο dB μ V 以下にてスケルチがオープンすることを確認する。						0	標準信号発生器		
8	S/N	確認	対向間でS/Nを測定する。						0	レベル計		FXのみ 通話確認にて実施する
9	切替部動	作試験	手動にて切替動作試験を行う。						0			無人局は有人局からの遠方監 視により確認する。
			自動切替動作試験及び警報動作試験を行う。						0			
10	空中線確認	外観の確認	空中線(トンネル内LCX含む)及び基地局空中線の取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み脱落を確認する。						0			
		給電線の確 認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		VSWR確 認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(また は通過形電力計)		
11	接続部の	確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態の確認をする。						0			
12	機器本体	の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
13	図書類・ 認	予備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 2-2 超短波無線電話装置(ML)

		<u> </u>				点検	周期					
No	. 確認:	事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	各部電圧	三電流確認	テスタにより測定する。		Л	Л	Л	Л	0	テスタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	送信周波	皮数確認	周波数計により測定し基準値(±5×10 ⁻⁶)以内であることを確認する。						0	周波数カウンタ	測定結果の変化傾向の把握	60M/150M に適用する。
3	送信出力	7確認	定格電源電圧で送信部出力端子において、指定出力±10%以内 であることを確認する。						0	高周波電力計		定在波測定が可能な通過形電 力計とする。
4	スプリン 確認	アス幅射強度	スプリアス(nf) 幅射強度を測定し帯域内 80dB 以下、帯域外 60dB 以下を確認する。 (f。: 原振周波数、高周波次数)						0	スペクトラムアナ ライザ		60M/150M に適用する。
5	最大周波	皮数偏移確認	許容偏移以内(±5KHz)であることを確認する。 変調周波数は 1KHz とする。						0	直線検波器、低周波 発振器		60M/150M に適用する。
6	空中線確認	外観の確認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み脱落を確認 する。						0			
		給電線の確 認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		VSWR確 認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
7	接続部の	確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態の確認をする。						0			
8	機器本体	本の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
9	図書類・認	予備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 2-3 超短波無線電話装置 (60MHz 帯 FX・FB(新スプリアス 規格準拠))

. 162	2 [2]/////		及無線電話装直(60MHz 帯 FX・FB(新スプリアス 規格準拠)			点検	周期						
No.	確認事功	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ヶ 月	ケ	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	電源電圧の	確認	自蔵の計器またはテスタにより測定する。		/1	/1	/1	/1	0	テスタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信周波数	文確認	周波数計により測定し基準値(±5×10 ⁻⁶)以内であることを確認する。						0	周波数カウンタ	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信出力確	認	定格電源電圧で送信部出力端子において、指定出力±10%以内であることを確認する。						0	高周波電力計		定在波測定が力計とする。	可能な通過形電
4	不要幅射強		スプリアス (nf。) 幅射強度を測定し帯域内 80dB 以下、帯域外 60dB 以下を確認する。(fo:原振周波数、高周波次数) 60MHz 帯新スプリアス規格準拠の場合は以下のとおりとする。 【帯域外領域】 1mW 以下、かつ、基本周波数の平均電力より 80dB 以上低いこと (ただし、空中線電力 1W 以下の場合は100 μ W 以下) 【スプリアス領域】 基本周波数の搬送波電力より 60dB 以上低いこと。(ただし、空中線電力 1W 以下の場合は50 μ W 以下)						0	スペクトラムアナ ライザ		空中線電力 50 る。	₩ 以下に適用す
5	最大周波数	文偏移確認	許容偏移以内(±5KHz)であることを確認する。 変調周波数は 1KHz とする。						0	直線検波器、低周波 発振器			
6	20dB 雑音 認	抑圧感度確	入力電圧感度が 2dBμV以下であることを確認する。						0	標準信号発生器、レ ベル計			
7	スケルチ感	族度確認	標準信号発生器により測定する。 Ο dBμV以下にてスケルチがオープンすることを確認する。						0	標準信号発生器			
8	S/N 確	認	対向間でS/Nを測定する。						0	レベル計		FXのみ 通話確認にて	実施する
9	切替部動作	試験	手動にて切替動作試験を行う。						0			無人局は有人視により確認で	局からの遠方監 する。
			自動切替動作試験及び警報動作試験を行う。						0				
10	空中線確認	外観の確認	空中線(トンネル内LCX含む)及び基地局空中線の取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み脱落を確認する。						0				
	· ·	給電線の確 認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0				
		VSWR確 認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)			
11	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態の確認をする。						0				
12	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持		
13	図書類・予 認	#備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え		
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0				

「個別点検」 2-4 超短波無線電話装置 (60MHz 帯 ML(新スプリアス 規格準拠))

					点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ヶ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	各部電圧電流確認	テスタにより測定する。						0	テスタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	送信周波数確認	周波数計により測定し基準値(±5×10 ⁻⁶)以内であることを確認する。						0	周波数カウンタ	測定結果の変化傾向の把握	
3	送信出力確認	定格電源電圧で送信部出力端子において、指定出力±10%以内であることを確認する。						0	高周波電力計		定在波測定が可能な通過形電 力計とする。
4	不要幅射強度確認	スプリアス (nf.) 幅射強度を測定し帯域内 80dB 以下、帯域外 60dB 以下を確認する。(fo: 原振周波数、高周波次数) 60MHz 帯新スプリアス規格準拠の場合は以下のとおりとする。 【帯域外領域】 1mW 以下、かつ、基本周波数の平均電力より 80dB 以上低いこと (ただし、空中線電力 1W 以下の場合は 100 μ W 以下) 【スプリアス領域】 基本周波数の搬送波電力より 60dB 以出低いこと。(ただし、空中線電力 1W 以下の場合は 50 μ W 以下)						0	スペクトラムアナ ライザ		空中線電力 50W 以下に適用する。
5	最大周波数偏移確認	許容偏移以内(±5KHz)であることを確認する。 変調周波数は 1KHz とする。						0	直線検波器、低周波 発振器		
6	外観の確認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発鯖、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み脱落を確認 する。						0			
7	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態の確認をする。						0			
8	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
9	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-1 テレメータ監視局装置(1/2)

		グーク 血 沈 内 衣 担 (1/ 2)			点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	印字記録確認	欠測、障害記録の有無を確認する。	0							測定結果の変化傾向の把握	必要に応じてインクリボンの 交換を行う。
3	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					*	0	自蔵計器またはテ スタ		
4	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					*	0	通過型電力計		※無線のみ対象
5	送信周波数確認	無線機 方向性結合器 終 端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					*	0	周波数計		※無線のみ対象
6	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終 端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器		※無線のみ対象
7	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯:1mW以下であり、かつ基本波の平均電力より60dB以上低いこと。 400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナライザまたは電界強度測定器		※無線のみ対象

「個別点検」 3-1 テレメータ監視局装置(2/2)

	777(英)	J 1 / V	7. / 血忧冽衣臣(2/2)			点検	周期					
No.	確認事項	頁の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ヶ 月	2 ケ 月		6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
8	受信入力電	力確認	相手局 オートラムアナライザ オートラムアナライザ オートラムアナライザ オートラムアナライザ オートラムアナライザ オート					*	0	スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器	24 11 PATT - PARE	※無線のみ対象
9	区間S/N	の確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					*	0	低周波発振器、レベル計		※無線のみ対象 S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
10	電池の交換	Ļ	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換 する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
11	機能の確	全局観測制御確認	に返送されることを確認する。					*	0		装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
	認	個別観測制御確認	手動で個別観測制御を行い、観測局からの応答信号を確認する。					*	0		測定結果の変化傾向の把握	
		プリンタ 制御	全局観測や個別観測により正常に印字記録を行うことを確認 する。					*	0			
		中継局制御	手動で中継局の起動/停止制御及び送信機の切り替え制御を 行い、動作が正常であることを確認する。 また、応答信号が正常に返送されることを確認する。					*	0			
		その他	呼出時間間隔の変更が行えることを確認する。					*	0			
12	受信データ	の確認	手動で個別観測制御を行い、収集したデータとセンサとのデータの照合を行う。					*	0			
13	通話機能確	認	各観測局、中継局と通話が行えることを確認する。					*	0			
14	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					*	0			※無線のみ対象
15	空中線確認	外観の確 認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確認する。						0			※無線のみ対象
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(また は通過形電力計)		
16	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
17	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					*	0		周囲環境を考慮した機能維持	
18	図書類・予	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
İ	認	五州アウドア	予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-2 テレメータ中継局装置 (V-V中継) (1/2)

	MININGS C 2) T	/ / IND/OXE (* * IND/ (1/ 2/			点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。		Л	Я	Я	Ж	<u>Я</u>	自蔵計器またはテスタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					*	0	通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象	
3	送信周波数確認	無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					*	0	周波数計		※無線のみ対象	
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz帯: ±5kHz 以内 400MHz帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、 低周波発振器		※無線のみ対象	
5	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯:1mW以下であり、かつ基本波の平均電力より60dB以上低いこと。 400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナライザまたは電界強度測定器		※無線のみ対象	

「個別点検」 3-2 テレメータ中継局装置(V-V中継)(2/2)

			グ・グ 中枢内表直(V = V 中枢)(2/2)			点検	周期					
No.	確認事項	頁の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1101	Plane J.	X - 10LX	II NO STANDARDEN SAN 1993 IN	日	ケ 月	ケ 月	ケ 月	ケ 月	ケ 月	<i>Ж</i> /13747/Сий (4	WIN H 14 % PLA	VIII 3
6	スケルチ感	度確認	信号発生器 無線機		Л	Л	Л	Ж	0	標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象 2台構成の場合、SQを同レベルに調整する必要がある。
			標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを 確認する。									アに剛定する必要がある。
7	受信入力電	力確認	相手局 スペークトラムアナライザー 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認					*	0	スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		※無線のみ対象
			する。									
8	区間S/N	の確認	発振器 ・ レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					*	0	低周波発振器、レベ ル計		※無線のみ対象 S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、受 信感度の確認を行う。
9	中継制御部	動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					*	0			※無線のみ対象
10	遠隔切換部	動作確認	監視局からの制御信号により送信機の切替動作が正常である ことを確認する。					*	0			※無線のみ対象
11	状態返送部	動作確認	中継局の各種動作状態を監視局に返送し、その結果が正常であることを確認する。					*	0			
12	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					*	0			※無線のみ対象
13	空中線確認	外観の確認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			※無線のみ対象
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
14	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
15	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					*	0		周囲環境を考慮した機能維持	
16	図書類・予 認	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-3 テレメータ中継局装置 $(\mu-V$ 中継) (1/2)

					点検	周期						
No.	確認事項の概要	 作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
110.	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		日	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	C/HMACHE (VIII	
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。		月	月	月	月 ※	月〇	自蔵計器またはテ	装置の正常動作の確認		
1	17 印电/工。电/加准的	甘印の电圧/ 电側を日廊目船よには/ ハグ寺により側足りる。					**	0	日限目俗またほう	標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認						*	0	通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象	
		lacksquare										
		無線機 電力計										
		電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。										
3	送信周波数確認	周波数計					*	0	周波数計		※無線のみ対象	
		一										
		無線機 方向性結合器 終端										
		周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内										
		400MHz 带: ±3×10 ⁻⁶ 以内										
4	最大周波数偏移確認	70 + 64 IA MIII						0	FM直線検波器、低		※無線のみ対象	
		FM 直線検波器							周波発振器			
		発振器 無線機 方向性結合器 終端										
		75 POLEMA II III										
		直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。										
		測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内										
		400MHz 带: ±2.5kHz 以内										
5	不要輻射強度確認	スペクトラムアナライザ						0	スペクトラムアナ		※無線のみ対象	
		X^ 7 () () () () () () () () () (ライザまたは電界 強度測定器			
		無線機 方向性結合器 終端							强及侧足的			
		スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。										
		認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、										
		(n+2) f ₀ 、2nf ₀ 、3nf ₀ とする。										
		70MHz 帯: 1mW 以下であり、かつ基本波の平均電力より 60dB										
		以上低いこと。 400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)										
\•/=r	 置環境 重要性に広じて		<u> </u>	<u> </u>						L		

「個別点検」 3-3 テレメータ中継局装置 $(\mu-V$ 中継) (2/2)

						点検	周期					
.,	*4-371 -1- -	er o lum and	The Note of the Martin B. Charles A. M.	-	1	2	3	6	12			/#
No.	催認事」	頁の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	使用測定器等	点検目的の概要	備考
				日	月	月	月	月	月			
6	スケルチ感	度確認						*	0	標準信号発生器	装置の正常動作の確認	※無線のみ対象
			信号発生器 ┣┫ 無線機 ┃								標準値(規格値)との照合	2 台構成の場合、S Qを同レベ
											測定結果の変化傾向の把握	ルに調整する必要がある。
			標準信号発生器により測定する。									
			システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを									
			確認する。									
7	受信入力電	力確認	$\longrightarrow \mathbb{V} \longrightarrow \mathbb{V}$					*	\circ	スペクトラムアナ		※無線のみ対象
			相手局							ライザまたは電界		
										強度測定器		
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認									
8	区間S/N	の確認	する。	-				*	0	低周波発振器、レベ		※無線のみ対象
0	应問3/ N	マノ4世市心						**	\cup	収局放発振器、レヘ ル計		×無線のみ対象 S/Nが大幅に変動している
			発振器 							/ P		場合は、各部のレベル測定、受
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認									信感度の確認を行う。
			する。									TAZES TRANSCE OF TO SE
9	中継制御部	動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に					*	0			※無線のみ対象
			よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。									
			(擬似故障を含む)									
10	外部入出	力部動作確	外部信号により送信機の切替等の動作ができるとともに、中継					*	0			※無線のみ対象
	認		局の動作状態を正常に出力することを確認する。									
11	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					*	\circ			※無線のみ対象
12		外観の確	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の						0			※無線のみ対象
	確認	認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確									
	-	/A == 64 =	認する。									
		給電線の	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
	-	確認 VSWR	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。	1					0	定在波測定器(また		
		V S W K 確認							\cup	定任波側定裔(また は通過形電力計)		
13	接続部の確		接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0	は地地が毛刀可)		
10	19X NAT D14 A 7.1/14	z hr7,	19/1/1/1/1 ファ・、 一一、ファ・川コ サック3女形4/八/広ック1年的でき り る。						\circ			
14	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					*	0		周囲環境を考慮した機能維持	
	224 BB : 1 : 11:17		Section 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1					,•\	_		, JRJE C VALUE O TO DATISH THE	
15	図書類・予	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。	l					0		障害時の備え	
	認											
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			
		5世によいて					-					

「個別点検」 3-4 テレメータ観測局装置(1/2)

					点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					*	0	自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					*	0	通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象
3	送信周波数確認	無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					*	0	周波数計		※無線のみ対象
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、 低周波発振器		※無線のみ対象
5	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯: 1mW 以下であり、かつ基本波の平均電力より 60dB 以上低いこと。 400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1W の場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナライザまたは電界強度測定器		※無線のみ対象
6	受信入力電力確認	相手局 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					*	0	スペクトラムアナ ライザまたは 電界強度測定器		※無線のみ対象

「個別点検」 3-4 テレメータ観測局装置(2/2)

						点検	周期					
No.	確認事I	質の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備考
110.	4年40年4	只V M 女	[[宋少天/顺起团、 宋] [[] [[]	日日	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	区川积风市守		VHI -7-3
			<u> </u>		月	月	月	月	月			
7	区間S/N	「の確認	※振哭					*	0	低周波発振器、レベ ル計	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	※無線のみ対象S / Nが大幅に変動している
			発振器 - レベル計 レベル計							ル計	標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	場合は、各部のレベル測定、ス
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認								医龙帽木**/交信医门**/16座	ケルチ感度、受信感度の確認を
			する。									行う。
8	動作確認		観測装置を構成する各部の動作試験をする。					*	0			
									_			
9	電池の確認	,	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	伝搬路の見	通〕 確認	する。 局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					*	\cap		装置の正常動作の確認	※無線のみ対象
10	I JAN JAN JAN VA	10年の1年的	用日间四(1904) 《四域阳上》则(7) 从(2) 中间 (10) 1 (2)					^			標準値(規格値)との照合	へ 無が。 シットハラ
11	空中線	外観の確	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の						0		測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象
	確認	認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確									
			認する。									
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		V S W R	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(また		
		確認	及別級を例だし、土工修介との金目を推応する。						0	は通過形電力計)		
12	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
13		たは雨量計	センサとA/D変換器、記録計の連動動作を確認する。					*	0			
	等のデータ	の作派	(水位は量水標と比較する。) A/D変換器の動作を確認する。					*	0			
			A/D 変換品の動作を確認する。 000~999 の各桁を 10 ステップ確認。					**				
14	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					*	0		周囲環境を考慮した機能維持	
15		備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
	認		▽									
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			
		T (1))				l						

「個別点検」 3-5 テレメータ監視局装置(新スプリアス規格準拠)(1/2)

	3 3 7 2	/ / 温成周衣良(例バン)/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /			点椅	角周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	ケ	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	印字記録確認	欠測、障害記録の有無を確認する。	0							測定結果の変化傾向の把握	必要に応じてインクリボンの 交換を行う。
3	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					*	0	自蔵計器またはテスタ		31002.030
4	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					*	0	通過型電力計		※無線のみ対象
5	送信周波数確認	周波数計					*	0	周波数計		※無線のみ対象
6	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器						0	FM直線検波器、低 周波発振器		※無線のみ対象
7	不要輻射強度確認	無線機 減衰器						0	スペクトラムアナライザ		※無線のみ対象 注1 無変調状態 注2 変調状態

[※]設置環境、重要性に応じて実施

「個別点検」 3-5 テレメータ監視局装置(新スプリアス規格準拠)(2/2)

' 11111	加忠快 」 •	$5 - 5 = 7 \mathbf{V}$	メータ監視局装置(新スプリアス規格準拠)(2/2)								T	
						点検	周期					
No.	確認事項	頁の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2		6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備考
				日	月月	ケ 月		ケ 月	ケ 月			
8	受信入力電	力確認						*	0	スペクトラムアナ		※無線のみ対象
			相手局							ライザまたは電界 強度測定器	標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認							因及例定值	例だ相木の友に原向の心理	
			する。									
9	区間S/N	の確認						*	0	低周波発振器、レベ ル計		※無線のみ対象 S/Nが大幅に変動している
			発振器							/		場合は、各部のレベル測定、ス
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認									ケルチ感度、受信感度の確認を
10	電池の交換		する。 バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換						0		周囲環境を考慮した機能維持	行う。
10	电电写文换	:	する。)		プログスクログにつか。して1次形が世行	
11		全局観測	手動で全局観測制御を行い、全ての観測局から応答信号が正常					*	0		装置の正常動作の確認	
	機能の確 認	制御確認個別観測	に返送されることを確認する。 手動で個別観測制御を行い、観測局からの応答信号を確認す					*	0		標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	
	μu	制御確認	3 動 (^• \)		网况和风气发门风气气	
		プリンタ	全局観測や個別観測により正常に印字記録を行うことを確認					*	0			
		制御 中継局制	する。 手動で中継局の起動/停止制御及び送信機の切り替え制御を					*	0			
		御	行い、動作が正常であることを確認する。					**	0			
			また、応答信号が正常に返送されることを確認する。									
		その他	呼出時間間隔の変更が行えることを確認する。					*	0			
12	受信データ	の確認	手動で個別観測制御を行い、収集したデータとセンサとのデータの照合を行う。					*	0			
13	通話機能確	認	各観測局、中継局と通話が行えることを確認する。					*	0			
14	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					*	0			※無線のみ対象
15			空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の						0			※無線のみ対象
	確認	認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。									
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
16	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
17	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					*	0		周囲環境を考慮した機能維持	
18	図書類・予	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
	認	5世によいて	予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

[※]設置環境、重要性に応じて実施

「個別点検」 3-6 テレメータ中継局装置(V-V中継:新スプリアス規格準拠)(1/2)

. 1121	別点検] 3-6 アレ 	メータ中継向装直(V=V中継:新スプリアス規格準拠)(1/ 2 	点検周期									
					_			10				
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3		12	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
			H	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ				-
				月	月	月	月	月				
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					*	0	自蔵計器またはテ	装置の正常動作の確認		
									スタ	標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認						*	0	通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象	
		V										
		■ 無線機 ■ 電力計 ■										
		電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。										
3	送信周波数確認						*	0	周波数計		※無線のみ対象	
		周波数計										
		無線機 → 方向性結合器 → 終端										
		201.3.1701.5.170										
		周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。										
		70MHz 带: ±5×10 ⁻⁶ 以内										
		400MHz 带: ±3×10 ⁻⁶ 以内										
4	最大周波数偏移確認							0	FM直線検波器、		※無線のみ対象	
1	SKY CHILD SKING IS FILLED.	FM 直線検波器						0	低周波発振器		74(7)(0)(24:2:7) 7(1:24	
									120, 101, 201			
		│ │ 発振器										
		MAPPING THE										
		直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。										
		測定箇所は、1kHz、3kHz とする。										
		70MHz 帯: ±5kHz 以内										
		400MHz 带: ±2.5kHz 以内										
5	不要輻射強度確認							0	スペクトラムアナ		※無線のみ対象	
	1 > THA1 3 > () () () () ()	無線機 減衰器							ライザ		注1 無変調状態	
		無線機 減衰器 スペ゚クトラムアナライサ゛									注2 変調状態	
		搬送波抑圧									12 2 X WALL VIEW	
		発振機 G フィルタ G T T T T T T T T T										
		する。搬送波抑圧フィルタは必要に応じて使用する。										
		「帯域外領域における不要発射強度(注1)]										
		70MHz 帯: 1mW 以下、かつ、基本周波数の平均電力より 60dB(基										
1		本周波数が 70MHz 以下の場合は 80dB) 以上低いこと。										
1		本角(及数が 70mlに 以下の場合は 300m) 以上 以										
		(たたし、1w 以下の場合は 100 μw 以下) 400MHz 帯: 2.5 μw 以下。(ただし、1w 以下の場合は 25 μw 以下)										
		[スプリアス領域における不要発射強度(注2)]										
		70MHz 帯:基本波の搬送電力より 60dB 以上低いこと。										
1		70MHZ 帝: 基本放り版送電刀より 600B 以上はいこと。 (ただし、1W 以下の場合は 50 μW 以下)										
Ц	関連点 手再性によいて	400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は25μW以下)					<u> </u>					

「個別点検」 3-6 テレメータ中継局装置(V-V中継:新スプリアス規格準拠)(2/2)

	別点検」		メータ中継局装直(V-V中継:新スプリアス規格準拠)(2/2			点枱	周期						
	+4.371 -H-+	or a last our			1	2	3	6	12		HIA DALL A METT	/#	
No.	催認事	頁の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	使用測定器等	点検目的の概要	備考	
				П	月	月	月	月	月				
6	スケルチ感	度確認						*	0	標準信号発生器	装置の正常動作の確認	※無線のみ対象	
			信号発生器 無線機								標準値(規格値)との照合	2 台構成の場合、S Qを	
			to Market II and II III) - 1 to Market 1 or								測定結果の変化傾向の把握	ルに調整する必要がある	5.
			標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを										
			確認する。										
7	受信入力雷	力確認						*	0	スペクトラムアナ		※無線のみ対象	
	24107 17412	27 V	相手局							ライザまたは電界		7.4.4.	
			相手局							強度測定器			
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認										
			する。 						_				
8	区間S/N	の確認						*	0	低周波発振器、レベ		※無線のみ対象	ナ 1、フ
			発振器 レベル計							ル計		S/Nが大幅に変動し 場合は、各部のレベル測	
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認									一場 は、日前のレーンル。 信感度の確認を行う。	10.亿、文
			する。									II NEW X +> PERU C 1 > 8	
9	中継制御部	動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に					*	0			※無線のみ対象	
			よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。										
			(擬似故障を含む)										
10	遠隔切換部	動作確認	監視局からの制御信号により送信機の切替動作が正常である					*	0			※無線のみ対象	
	11 AK >= >X An	# # <i> </i>	ことを確認する。					\•/					
11	状態返送部	助作傩認	中継局の各種動作状態を監視局に返送し、その結果が正常であることを確認する。					*	0				
12	伝搬路の見	通〕 確認	ることを確認する。 局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					*	0			※無線のみ対象	
12	I JAX PET V 7 YE	7四 〇年郎	用日间四(C40 V·C内放时工92個/P/及及守心脏的) 50。					^	0			A MAN O JO / A J SK	
13	空中線	外観の確	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の						0			※無線のみ対象	
	確認	認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確									, , , , , ,	
			認する。										
		給電線の	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0				
		確認								abababanatan () o			
			反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(また			
14	接続部の確	確認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0	は通過形電力計)			
14	1女形に可りり1件	E IDIC)	1女/NLソ ノル、ユヤンク、畑丁寺の技術仏版の推談を9〇。						\cup				
15	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					*	0		周囲環境を考慮した機能維持		
	22-ee 11 °C							. , ,	_				
16	図書類・予	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え		
	認												
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0				
		五世に古いて											

「個別点検」 3-7 テレメータ中継局装置 ($\mu-V$ 中継:新スプリアス規格準拠) (1/2)

· IE	別点検] 3-7 アレ 	メータ中継向装直(μ − V 中継:新スプリアス規格準拠)(1 / 2 	点検周期									
				-	_			1.0				
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3		12	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
			日	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ				
				月	月	月	月	月				
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					*	\circ	自蔵計器またはテ	装置の正常動作の確認		
									スタ	標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	-					*	0	通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象	
		V										
		■ 無線機 ■ 電力計 ■										
		電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。										
3	送信周波数確認						*	0	周波数計		※無線のみ対象	
	12177 V 12737 V 1242	周波数計					,•,		7. 4.0-5.34.61		744711111111111111111111111111111111111	
		無線機 方向性結合器 終端										
		WANTE OF THE OWNER										
		 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。										
		70MHz 带: ±5×10 ⁻⁶ 以内										
		400MHz 带: ±3×10 ⁻⁶ 以内										
4	最大周波数偏移確認	100miz . = 0 × 10 × 1						0	FM直線検波器、低		※無線のみ対象	
4	以八月(父奴)州(岁)庄心	FM直線検波器						0	周波発振器		スペ 無例(V) (ア人) 多く	
									户(汉元)以66			
		発振器 無線機 方向性結合器 終端										
		光振器 無療機 万円性福言語 於										
		 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。										
		測定箇所は、1kHz、3kHzとする。										
		70MHz 帯: ±5kHz 以内										
		70MHz 帝: ±3kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内										
<u> </u>		400MHZ 帝: 工2. 5KHZ 以內							- 02 2 - 2 - 2		New Arts and Tell Arts	
5	不要輻射強度確認	│ ┌── ┐┌──┐┌ ०						0	スペクトラムアナ		※無線のみ対象	
		無線機 → 減衰器 → スペ゚クトラムアナライサ゛							ライザ		注1 無変調状態	
		Hur 7.4 yts 4ta LC									注2 変調状態	
		発振機 O 搬送波抑圧 O フィルタ										
		2 47.2										
		スペクトラムアナライザで測定し基準値内であることを確認										
		する。搬送波抑圧フィルタは必要に応じて使用する。										
		[帯域外領域における不要発射強度(注1)]										
		70MHz 帯:1mW 以下、かつ、基本周波数の平均電力より60dB(基										
		本周波数が 70MHz 以下の場合は 80dB) 以上低いこと。										
		(ただし、1W以下の場合は 100μW以下)										
		400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は 25μW以下)										
		[スプリアス領域における不要発射強度(注2)]										
		70MHz 帯:基本波の搬送電力より 60dB 以上低いこと。										
		(ただし、1W以下の場合は50μW以下)										
		400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は25μW以下)										
	関連体 手再性によじて										•	

「個別点検」 3-7 テレメータ中継局装置 ($\mu-V$ 中継:新スプリアス規格準拠) (2/2)

	別尽愥」	<u> </u>	メータ中継向装直 (μ − V 中継:新スノリテス規格準拠) (2 / 2			点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備考
110.	1年100 子。	只 V M 女	「一米ッ大池地西、大門町が	日	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	区/11区/正明 号)m
6	スケルチ原	() 市 確 辺			月	月	月	月 ※	月〇	標準信号発生器	装置の正常動作の確認	※無線のみ対象
0	2007000元	8/文作的0	信号発生器 無線機					**		塚平日 7 光工船	標準値(規格値)との照合	2 台構成の場合、SQを同レベ
											測定結果の変化傾向の把握	ルに調整する必要がある。
			標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを									
			システム毎に設定された値でスクルテかオーノンすることを 確認する。									
7	受信入力電	直力確認	V - V					*	0	スペクトラムアナ		※無線のみ対象
			相手局							ライザまたは電界 強度測定器		
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認							JA/ZIMI/ACHI		
			する。									
8	区間S/N	「の確認						*	0	低周波発振器、レベ ル計		※無線のみ対象 S/Nが大幅に変動している
			発振器							ノレ司「		場合は、各部のレベル測定、受
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認									信感度の確認を行う。
			する。									
9	中継制御部	『動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に					*	0			※無線のみ対象
			よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)									
10	外部入出:認	力部動作確	外部信号により送信機の切替等の動作ができるとともに、中継 局の動作状態を正常に出力することを確認する。					*	0			※無線のみ対象
11	伝搬路の見	1通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					*	0			※無線のみ対象
12	空中線	外観の確	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の						0			※無線のみ対象
	確認	認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確									
		給電線の	認する。 ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。									
		お電線の 確認	クーノルの カ 化、作設状態の帷部をする。						0			
		V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
13	接続部の確		接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
14	機器本体の)清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					*	0		周囲環境を考慮した機能維持	
15		備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
	認		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			
		五世に よじて										

「個別点検」 3-8 テレメータ観測局装置(新スプリアス規格準拠)(1/2)

					点検	周期						
	76-37 ± 75 0 40 ±			1	2	3	6	12	在四次		/++ -	-tz.
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
			日	月	月	月	月	月				
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					*	0	自蔵計器またはテ	装置の正常動作の確認		
									スタ	標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認						*	0	通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象	
		無線機 電力計										
0 ,	`\\ \= \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \	電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					\•/		田冲松司		少年始立了山东	
3	送信周波数確認	周波数計					*	0	周波数計		※無線のみ対象	
		無線機 方向性結合器 → 終端										
		周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内										
		400MHz 带: ±3×10 ⁻⁶ 以内										
4 1	最大周波数偏移確認							0	FM直線検波器、		※無線のみ対象	
1	PC V V V V V V V V V V V V V V V V V V V	FM 直線検波器						_	低周波発振器		7.0111111111111111111111111111111111111	
		直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。										
		測定箇所は、1kHz、3kHz とする。										
		70MHz 帯:±5kHz 以内										
		400MHz 帯:±2.5kHz 以内										
5	不要輻射強度確認	 ,						\circ	スペクトラムアナ		※無線のみ対象	
		無線機 減衰器							ライザ		注1 無変調状態	
		搬送波抑圧									注2 変調状態	
		発振機										
		する。搬送波抑圧フィルタは必要に応じて使用する。										
		[帯域外領域における不要発射強度(注1)]										
		70MHz 帯:1mW 以下、かつ、基本周波数の平均電力より 60dB(基										
		本周波数が 70MHz 以下の場合は 80dB) 以上低いこと。										
		(ただし、1W以下の場合は 100 μW以下)										
		400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は25μW以下)										
		[スプリアス領域における不要発射強度(注2)]										
		70MHz 帯:基本波の搬送電力より 60dB 以上低いこと。 (ただし、1W 以下の場合は 50 μ W 以下)										
		(たたし、1W以下の場合は30μW以下) 400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は25μW以下)										
6 7	受信入力電力確認	+900milz m . 2.3 μ m 女 l 。 (たたじ、1m 女 l の 物 l は 2.3 μ m 女 l)					*	0	スペクトラムアナ		※無線のみ対象	
	◇ 1日 / マノットローノット性神中						/•\	\sim	ライザまたは		> * V V V V V V V V V V V V V V V V V V	
		相手局							電界強度測定器			
		対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認										
	3世内 手声州によいて	する。										

「個別点検」 3-8 テレメータ観測局装置(新スプリアス規格準拠)(2/2)

						点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備考
110.	구 고막과	X-1/M2		日	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	(C/11)(1/C-111-1)		VIII .
7	区間S/N	I のでを⇒刃	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\		月	月	月	月 ※	月	低周波発振器、レベ	装置の正常動作の確認	※無線のみ対象
'	区间の/ 1	VVが生記						**	0	ル計	表直の正帝動作の確認 標準値(規格値)との照合	S/Nが大幅に変動している
			発振器 - レベル計							7 · H1	測定結果の変化傾向の把握	場合は、各部のレベル測定、ス
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認									ケルチ感度、受信感度の確認を
	€I. /k++/+==11		73.					\•/				行う。
8	動作確認		観測装置を構成する各部の動作試験をする。					*	0			
9	電池の確認	<u> </u>	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換						0		周囲環境を考慮した機能維持	
			する。									
10	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					*	0		装置の正常動作の確認	※無線のみ対象
11	空中線	外観の確	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の						0		標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象
11	空 中 極 確認	外観の唯認	全中様・取付金具の変形、損傷及の異常な発館、腐食、空装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確						0		側に指来の変化傾向の把握	※無様のみ対象
	心电进化	thr.	認する。									
		給電線の	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		確認										
		VSWR 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(また は通過形電力計)		
12	接続部の確	在 認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
13	水位計また	たは雨量計	センサとA/D変換器、記録計の連動動作を確認する。 (水位は量水標と比較する。)					*	0			
	寺のノーク	、 ○○1/住庫○	A/D変換器の動作を確認する。					*	0			
			000~999 の各桁を 10 ステップ確認。					∕• \)			
14	機器本体の)清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					*	0		周囲環境を考慮した機能維持	
15	図書類・子 認	分備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
	H-0.		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			
		TT 11 1 10 10 1		1	I	l .	i l					

「個別点検」 3-9 放流警報監視局装置(1/2)

					点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	印字記録確認	点検異常記録の有無を確認する。	0							測定結果の変化傾向の把握	必要に応じてインクリボンの 交換を行う。
3	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ		
4	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計		※無線のみ対象
5	送信周波数確認	無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計		※無線のみ対象
6	最大周波数偏移確認							0	FM直線検波器、低 周波発振器		※無線のみ対象
7	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯:1mW以下であり、かつ基本波の平均電力より60dB以上低いこと。 400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		※無線のみ対象

「個別点検」 3-9 放流警報監視局装置(2/2)

						点椅	闹期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月		6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
8	受信入力電	 直力確認	相手局 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		※無線のみ対象
9	区間S/N	の確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		※無線のみ対象 S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
10	電池の確認	2	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換 する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
11	通話操作認	器の動作確	通話操作器の動作試験を行い、正常であることを確認する。					0			装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	※無線のみ対象
12	システ ム機能	点検制御	手動で点検制御を行い正常に動作することを確認する。					0			測定結果の変化傾向の把握	
	の確認	音声発生 装置動作 確認	音声発生装置が正常に動作することを確認する。					0				
		プリンタ 制御	全局観測や個別観測により正常に印字記録を行うことを確認する。					0				
		中継局制御	手動で中継局の起動/停止制御及び送信機の切り替え制御を 行い、動作が正常であることを確認する。 また、応答信号が正常に返送されることを確認する。					0				
13	警報制御確	筆認	対向間で吹鳴・放送等、警報制御の実動作試験を行い、正常であることを確認する。 ・サイレン制御 ・擬似音制御 ・放送制御 ・回転灯・表示板等の制御						0			
14	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				※無線のみ対象
15	空中線確認	認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			※無線のみ対象
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
	I to a to a	V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(また は通過形電力計)		
16	接続部の確	-	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。			<u> </u>		_	0			
17	機器本体の		機器本体の内外面を清掃する。		ļ	<u> </u>		0			周囲環境を考慮した機能維持	
18		備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。			<u> </u>			0		障害時の備え	
	認		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-10 放流警報中継局装置(V-V中継)(1/2)

					点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月		6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象	
3	送信周波数確認	無線機 方向性結合器 終 端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計		※無線のみ対象	
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz帯: ±5kHz 以内 400MHz帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器		※無線のみ対象	
5	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯:1mW以下であり、かつ基本波の平均電力より60dB以上低いこと。 400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナライザまたは電界強度測定器		※無線のみ対象	

「個別点検」 3-10 放流警報中継局装置(V-V中継)(2/2)

	が10mmで 1		ル自TKI NE/内女臣 (V V I NE/ (2/ 2)			点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ヶ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
6	スケルチ感	戍度確認	信号発生器 無線機 標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを確認する。					0		標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象 2 台構成の場合、S Qを同レベルに調整する必要がある。
7	受信入力電	 力確認	相手局 スペークトラムアナライザー 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		※無線のみ対象
8	区間S/N	の確認	発振器 発振器 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		※無線のみ対象 S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、受 信感度の確認を行う。
9	中継制御部		受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					0				
10	遠隔切換部	邓動作確認	監視局からの制御信号により送信機の切替動作が正常である ことを確認する。					0				
11	状態返送部	邓動作確認	中継局の各種動作状態を監視局に返送し、その動作が正常であることを確認する。					0				
12	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				※無線のみ対象
13	空中線確認	外観の確 認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			※無線のみ対象
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
14	接続部の確	建認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
15	機器本体の)清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
16	図書類・予 認	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-11 放流警報中継局装置 $(\mu-V$ 中継) (1/2)

					点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月		6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信周波数確認	周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器			
5	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯:1mW以下であり、かつ基本波の平均電力より60dB以上低いこと。 400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナライザまたは電界強度測定器			

「個別点検」 3-11 放流警報中継局装置 $(\mu-V)$ 中継 (2/2)

			ル音取 ME/N X 巨 (μ			点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
6	スケルチ原	核度確認	信号発生器 無線機 標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを確認する。					0		標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	2 台構成の場合、S Q を同レベルに調整する必要がある。
7	受信入力電	重力確認	相手局 スペックトラムアナライサ スペックトラムアナライサ 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		
8	区間S/N	いの確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
9	中継制御部	邓動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					0				
10	外部入出; 認	力部動作確	外部信号により送信機の切替等の動作ができるとともに、中継 局の動作状態を正常に出力することを確認する。					0				
11	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
12	空中線確認	認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
13	接続部の確	雀 認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
14	機器本体の)清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
15	図書類・子 認	予備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-12 放流警報局装置(1/2)

					点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ヶ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信周波数確認	無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器			
5	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯: 1mW 以下であり、かつ基本波の平均電力より 60dB 以上低いこと。 400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1W の場合は 1μW 以下)						0	スペクトラムアナライザまたは電界強度測定器			
6	受信入力電力確認	相手局 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器			

「個別点検」 3-12 放流警報局装置(2/2)

						点検	周期					
No.	確認事項	頃の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ヶ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
7	区間S/N	1の確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
8	動作確認		警報装置を構成する各部の動作確認を行う。					0				
9	警報制御確	[認	制御監視局からの制御により、実動作試験を行う。 ・サイレン制御 ・擬似音制御 ・放送制御 ・回転灯・表示板等の制御						0			
10	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
11	空中線確認	外観の確認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
12	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
13	サイレン、 集音マイク		サイレンまたはスピーカの発錆、ケーブル接続部及びそれらの 取付部の点検、防鳥網の点検並びに本体等の清掃を行う。 集音マイクの外観及び取付状態等を点検し、また動作試験を行 い正常であることを確認する。					0				
14	回転灯及0 確認	び表示板の	回転灯、閃光灯、表示板、河川情報表示板等の外観及び取付状態の点検と動作試験を行い、正常であることを確認する。					0				
15	機器本体の)清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
16	図書類・予 認	・備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-13 放流警報監視局装置(新スプリアス規格準拠)(1/2)

					点核	食周期]					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	ケ	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	印字記録確認	点検異常記録の有無を確認する。	0							測定結果の変化傾向の把握	必要に応じてイン 交換を行う。	クリボンの
3	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ			
4	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計		※無線のみ対象	
5	送信周波数確認	周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計		※無線のみ対象	
6	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器		※無線のみ対象	
7	不要輻射強度確認	無線機 減衰器 機送波抑圧 フィルタ スペクトラムアナライザで測定し基準値内であることを確認する。搬送波抑圧フィルタは必要に応じて使用する。 [帯域外領域における不要発射強度(注1)] 70MHz 帯:1mW以下、かつ、基本周波数の平均電力より60dB(基本周波数が70MHz以下の場合は80dB)以上低いこと。 (ただし、1W以下の場合は100μW以下) 400MHz帯:2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は25μW以下) [スプリアス領域における不要発射強度(注2)] 70MHz帯:基本波の搬送電力より60dB以上低いこと。 (ただし、1W以下の場合は25μW以下) 400MHz帯:2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は25μW以下)						0	スペクトラムアナ ライザ		※無線のみ対象 注1 無変調状態 注2 変調状態	

「個別点検」 3-13 放流警報監視局装置(新スプリアス規格準拠)(2/2)

「10)	別尽快」 •	3-13 放	流警報監視局装置(新スプリアス規格準拠)(2/2) 	ı		H-J.A	, ISSI 44:0			I	T	
				-	ı		周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備考
	inmire. 1	17423	11 No Name and Additional Section 1	B	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	25/14/4/2 MB 4		5113
					月	月	月	月	月			
8	受信入力電	 直力確認	$\longrightarrow \mathbb{V} \longrightarrow \mathbb{V}$					0		スペクトラムアナ	装置の正常動作の確認	※無線のみ対象
			相手局							ライザまたは電界	標準値(規格値)との照合	
			1H T /HJ							強度測定器	測定結果の変化傾向の把握	
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認									
			する。									
9	区間S/N	1の確認	$\nabla \longrightarrow \nabla$					0		低周波発振器、レベ		※無線のみ対象
			発振器 Lpm プラング Lpm レベル計 し							ル計		S/Nが大幅に変動している
			元級相									場合は、各部のレベル測定、ス
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認									ケルチ感度、受信感度の確認を
			する。									行う。
10	電池の確認	3	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換						0		周囲環境を考慮した機能維持	
			する。									
11	通話操作	器の動作確	通話操作器の動作試験を行い、正常であることを確認する。					0			装置の正常動作の確認	※無線のみ対象
	認										標準値(規格値)との照合	
12	システ	点検制御	手動で点検制御を行い正常に動作することを確認する。					0			測定結果の変化傾向の把握	
	ム機能											
	の確認	音声発生	音声発生装置が正常に動作することを確認する。					0				
		装置動作										
		確認										
	-	プリンタ	全局観測や個別観測により正常に印字記録を行うことを確認					0				
		制御	する。					0				
			,					_				
		中継局制	手動で中継局の起動/停止制御及び送信機の切り替え制御を					0				
		御	行い、動作が正常であることを確認する。									
			また、応答信号が正常に返送されることを確認する。									
13	警報制御確	記	対向間で吹鳴・放送等、警報制御の実動作試験を行い、正常で						0			
			あることを確認する。									
			・サイレン制御									
			・擬似音制御									
			・放送制御									
			・回転灯・表示板等の制御									
14	伝搬路の見		局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				※無線のみ対象
15	空中線	外観の確	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の						0			※無線のみ対象
	確認	認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確									
			認する。									
		給電線の	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		確認										
		V S W R	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(また		
		確認								は通過形電力計)		
16	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
17	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
18	図書類・予	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
	認		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0		1	
			*****							1	1	-I

「個別点検」 3-14 放流警報中継局装置 (V-V中継:新スプリアス規格準拠) (1/2)

	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	川言報中極用表直(V ̄V干極・利ヘノサノへ尻桁平延)(1/ Z 			点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	ケ	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備 考	
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象	
3	送信周波数確認	無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計		※無線のみ対象	
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器		※無線のみ対象	
5	不要輻射強度確認	無線機 減衰器						0	スペクトラムアナライザ		※無線のみ対象 注1 無変調状態 注2 変調状態	

「個別点検」 3-14 放流警報中継局装置(V-V中継:新スプリアス規格準拠)(2/2)

1 1121	別点検」 3	5 — 1 4 //X{	流警報中継局装置(V−V中継:新スプリアス規格準拠)(2/2 ┃	,) 		占給	周期					
No.	確認事項	質の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
6	スケルチ感	度確認	信号発生器 無線機 標準信号発生器により測定する。システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを確認する。		73	73	71	0	/-	標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象 2台構成の場合、SQを同レベルに調整する必要がある。
7	受信入力電	力確認	相手局 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		※無線のみ対象
8	区間S/N	の確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		※無線のみ対象 S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、受 信感度の確認を行う。
9	中継制御部	動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					0				
10	遠隔切換部	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	監視局からの制御信号により送信機の切替動作が正常である ことを確認する。					0				
11	状態返送部	動作確認	中継局の各種動作状態を監視局に返送し、その動作が正常であることを確認する。					0				
12	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				※無線のみ対象
13	空中線確認	外観の確認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			※無線のみ対象
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		VSWR 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
14	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
15	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
16	図書類・予 認	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-15 放流警報中継局装置 $(\mu-V$ 中継:新スプリアス規格準拠) (1/2)

. 1121	別点検」 3-15 放	流警報中継局装直 (μ − V 中継:新スプリテス規格準拠)(1 / 2 	ĺ		占烃	周期						
				1		. 河朔	6	12				
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1 4-	ケ	ケ	ケ	12 ケ	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
			日	月	月	月	月	月				
1	各部電圧・電流確認	▶ 各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。		Л	Л	Л	Л	Л	自蔵計器またはテ	装置の正常動作の確認		
1	17 印电压,电机准配	行的の电圧/ 电側を日隙目的よには/ ヘク寺により側にする。					0		日限目留またほう	標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認						0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
	た旧田八州田町	\					0		- 地地主电/川	例是相不少及旧原同v为已控		
		無線機電力計										
		MINN VA										
		電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。										
3	送信周波数確認						0		周波数計			
		周波数計										
		無線機 → 方向性結合器 → 終端										
		周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。										
		70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内										
		400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内										
4	最大周波数偏移確認	FM直線検波器						0	FM直線検波器、低			
		I ii E.M.K.Wan							周波発振器			
		発振器 無線機 方向性結合器 終端										
		光振器 無麻懐 万间性稻百器 於 端										
		 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。										
		測定箇所は、1kHz、3kHz とする。										
		70MHz 带: ±5kHz 以内										
		400MHz 带: ±2.5kHz 以内										
5	不要輻射強度確認	 ,						0	スペクトラムアナ		※無線のみ対象	
		無線機 減衰器 スペックトラムアナライサ							ライザ		注1 無変調状態	
											注2 変調状態	
		を振機 の 搬送波抑圧 マスルタ										
		2 47.2										
		スペクトラムアナライザで測定し基準値内であることを確認										
		する。搬送波抑圧フィルタは必要に応じて使用する。										
		[帯域外領域における不要発射強度(注1)]										
		70MHz 帯: 1mW 以下、かつ、基本周波数の平均電力より 60dB(基										
		本周波数が 70MHz 以下の場合は 80dB) 以上低いこと。										
		(ただし、1W以下の場合は100μW以下) 400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は25μW以下)										
		400MnZ 〒: 2.5μ W 以 Γ。(たたし、1 W 以 Γ の 場合は 25μ W 以 Γ) [スプリアス領域における不要発射強度(注 2)]										
		「「スノリノス領域における不要発射独及(在2)」 70MHz 帯:基本波の搬送電力より60dB以上低いこと。										
		70MIZ 帝・ 差年度の版と电力より 00db 以上医パこと。 (ただし、1W 以下の場合は 50 μ W 以下)										
		400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は25μW以下)										
		TOOMILE FT . 2.0 μ タイ。 (/こ/こし、1 タイック物口 は 20 μ タイ)										

「個別点検」 3-15 放流警報中継局装置 $(\mu-V$ 中継:新スプリアス規格準拠) (2/2)

	771117563	0 10 ///	ル音報中枢内衣目(μ - ν 中枢・利ヘノソナヘ処位中拠)(2 / 2			点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
6	スケルチ原	戍度確認	信号発生器 無線機 標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを確認する。					0		標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	2 台構成の場合、S Qを同レベルに調整する必要がある。
7	受信入力電	宣力確認	相手局 オウトラムアナライザ オウ間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		
8	区間S/N		発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
9	中継制御音		受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					0				
10	外部入出 認	力部動作確	外部信号により送信機の切替等の動作ができるとともに、中継 局の動作状態を正常に出力することを確認する。					0				
11	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
12	空中線確認	認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
13	接続部の確	雀 認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
14	機器本体の)清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
15	図書類・予 認	分備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-16 放流警報局装置(新スプリアス規格準拠)(1/2)

	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	(加) (1/2) (加) (1/2) (点検周							
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握	
3	送信周波数確認	無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計		
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器		
5	不要輻射強度確認	無線機 減衰器						0	スペクトラムアナ ライザ		※無線のみ対象 注1 無変調状態 注2 変調状態
6	受信入力電力確認	相手局 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		

「個別点検」 3-16 放流警報局装置(新スプリアス規格準拠)(2/2)

			THE THIRD COLUMN TO THE PROPERTY OF THE PROPER			点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
7	区間S/N	Nの確認	発振器 発振器 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベル計	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
8	動作確認		警報装置を構成する各部の動作確認を行う。					0				
9	警報制御品	在記	制御監視局からの制御により、実動作試験を行う。 ・サイレン制御 ・擬似音制御 ・放送制御 ・回転灯・表示板等の制御						0			
10	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
11	空中線確認	外観の確認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		VSWR 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
12	接続部の確	隹認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
13	サイレン、 集音マイク		サイレンまたはスピーカの発錆、ケーブル接続部及びそれらの 取付部の点検、防鳥網の点検並びに本体等の清掃を行う。 集音マイクの外観及び取付状態等を点検し、また動作試験を行 い正常であることを確認する。					0				
14	回転灯及 確認	び表示板の	回転灯、閃光灯、表示板、河川情報表示板等の外観及び取付状態の点検と動作試験を行い、正常であることを確認する。					0				
15	機器本体の)清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
16	図書類・予 認	分備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-17 テレメータ監視局装置(災害対策タイプ 1) (1/2)

					点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ヶ 月		6 ヶ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	印字記録確認	欠測、障害記録の有無を確認する。	0							測定結果の変化傾向の把握	必要に応じてインクリボンの 交換を行う。
3	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタにより測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ		
4	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計 電力計 マ					0		通過型電力計		通話機能付きの場合のみ
5	送信周波数確認	電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。 周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計		通話機能付きの場合のみ
6	最大周波数偏移確認							0	FM直線検波器、低 周波発振器		通話機能付きの場合のみ
7	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯:1mW以下であり、かつ基本波の平均電力より60dB以上低いこと。 400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナライザまたは電界強度測定器		通話機能付きの場合のみ

「個別点検」 3-17 テレメータ監視局装置(災害対策タイプ1)(2/2)

			アプラ 近 沈川衣臣(火音 対水アイフェ)(2/2)			点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
8	受信入力電	訂力確認	相手局 スペークトラムアナライサー スペークトラムアナライサー 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	
9	区間S/N	の確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
10	電池の確認	Ž	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換 する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
11	受信データ	の確認	手動で個別観測制御を行い、収集したデータとセンサとのデータの照合を行う。					0			装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
12	通話機能確	電認	各観測局、中継局と通話が行えることを確認する。					0			測定結果の変化傾向の把握	通話機能付きの場合のみ
13	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
14	空中線確認	外観の確 認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器 (また は通過形電力計)		
15	接続部の確	建認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
16	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
17	図書類・子 認	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-18 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ1)(V-V中継)(1/2)

	333M(K)	· / / /			点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	ケ	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。		, ,	, ,	,,	0	, ,	自蔵計器またはテ	装置の正常動作の確認		
									スタ	標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信周波数確認	無線機 方向性結合器 終端 周波数計 あります。 ボール あっている では は から は から は は あいます であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器			
5	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯:1mW以下であり、かつ基本波の平均電力より60dB以上低いこと。400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナライザまたは電界強度測定器			

「個別点検」 3-18 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ1)(V-V中継)(2/2)

. 115	別息検」	0 10 /	レメータ中継局装直(災害対策タイプ I) (V — V 中継)(2 / 2) 			占裕	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
6	スケルチ原		信号発生器 無線機 標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを確認する。					0		標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	2台構成の場合、SQを同レベルに調整する必要がある。
7	受信入力電	 直力確認	オートラムアナラムアナラムアナラムアナラムアナラムアナラムアナラムアナラムアナラムアナ					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		
8	区間S/N	の確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、受 信感度の確認を行う。
9	中継制御部		受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					0				
10	遠隔切換部	邓動作確認	監視局からの制御信号により送信機の切替動作が正常である ことを確認する。					0				
11	状態返送部	邓動作確認	中継局の各種動作状態を監視局に返送し、その動作が正常であることを確認する。					0				
12	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
13	空中線確認	外観の確認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(また は通過形電力計)		
14	接続部の確		接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
15	機器本体の		機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
16	図書類・子 認	分備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-19 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ 1) ($\mu-V$ 中継) (1/2)

	January Control	・クラールの表色(火口バルン・フェ)(ドール)(エノコ)	点検周期									
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信周波数確認	周波数計 無線機 方向性結合器 終 端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器						0	FM直線検波器、低 周波発振器			
5	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯: 1mW以下であり、かつ基本波の平均電力より60dB 以上低いこと。 400MHz 帯: 2.5 μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器			

「個別点検」 3-19 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ 1) $(\mu-V$ 中継)(2/2)

		/	レグ・グ 中極用表直(双音列泉グイブ 1) (μ - V 中極) (2/ 2	Ī		点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
6	スケルチ感	遂度確認	信号発生器 無線機 標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを確認する。					0		標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	2 台構成の場合、S Qを同レベルに調整する必要がある。
7	受信入力電	 力確認	相手局 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		
8	区間S/N	「の確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、受 信感度の確認を行う。
9	中継制御部	動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					0				
10	外部入出:認	力部動作確	外部信号により送信機の切替等の動作ができるとともに、中継 局の動作状態を正常に出力することを確認する。					0				
11	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
12	空中線確認	外観の確認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		VSWR 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
13	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
14	機器本体の)清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
15	図書類・予 認	・備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
	,,,,		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-20 テレメータ観測局装置(災害対策タイプ1)(1/2)

		· / / MINING (NOTAL)	点検周期									
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
110.		日本シスル西華原四、ストアサリストム	日	ケ 月	ケ 月	ケ 月	ケ 月	ケ 月	(C/HDATACHE (I	WIN I BY WILL	VIII	
1	各部電圧・電流確認	■ 各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。		Я	月	月	Л	月	自蔵計器またはテ	装置の正常動作の確認		
	1 41 · 0/2 · 0/4 · 14 · 14 · 14 · 14 · 14 · 14 · 14 ·								スタ	標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認						0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
		無線機 電力計										
		電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					-					
3	送信周波数確認	周波数計					0		周波数計			
		無線機 方向性結合器 А 端										
		周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。										
		70MHz 带:±5×10 ⁻⁶ 以内										
<u> </u>	B 123/4/W /27/67/437	400MHz 帯:±3×10 ⁻⁶ 以内										
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器						0	FM直線検波器、低 周波発振器			
									, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			
		発振器 無線機 方向性結合器 ★ 端										
		直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。										
		測定箇所は、1kHz、3kHz とする。										
		70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内										
5	不要輻射強度確認							0	スペクトラムアナ		_	
		スペクトラムアナライザ							ライザまたは電界 強度測定器			
		無線機 方向性結合器 終端							强反例足值			
		スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。										
		測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、										
		(n+2)f ₀ 、2nf ₀ 、3nf ₀ とする。										
		70MHz 帯: 1mW 以下であり、かつ基本波の平均電力より 60dB 以上低いこと。										
		以上版V・こと。 400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)										
		100300 10 . 3. 0 μ " 5/1 0 (/ε/ε σ (1 " 5/3)) [16 1 μ " 5/1]		l		<u> </u>						

「個別点検」 3-20 テレメータ観測局装置(災害対策タイプ1)(2/2)

			· / / MINING (MINING) - / / / / / / / / / / / / / / / / / /			占給	周期					
No.	確認事」	頁の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
6	受信入力電	江力確認	相手局 スペ・クトラムアナライサ スペ・クトラムアナライサ 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		
7	区間S/N	の確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		S/Nが大幅に変動してい場合は、各部のレベル測定、ケルチ感度、受信感度の確認行う。
8	動作確認		観測装置を構成する各部の動作の確認を行う。					0				
9	電池の確認	,	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換 する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0			装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
11	空中線確認	外観の確認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0		測定結果の変化傾向の把握	
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
12	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
13	水位計また等の確認	たは雨量計	センサとA/D変換器、記録計の連動動作を確認する。 (水位は量水標と比較する。)					0				
			A/D変換器の動作を確認する。 000~999 の各桁を 10 ステップ確認する。					0				
14	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
15	図書類・予 認	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-21 テレメータ監視局装置(災害対策タイプ1:新スプリアス規格準拠)(1/2)

	加州快」 5 2 1 7	・ / 一/ 皿				周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	印字記録確認	欠測、障害記録の有無を確認する。	0							測定結果の変化傾向の把握	必要に応じてインクリボンの 交換を行う。
3	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタにより測定する。					0		自蔵計器またはテスタ		210.22
4	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計		通話機能付きの場合のみ
5	送信周波数確認	周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計		通話機能付きの場合のみ
6	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終 端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定変調周波数は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器		通話機能付きの場合のみ
7	不要輻射強度確認	無線機 減衰器 一般送波抑圧 フィルタ						0	スペクトラムアナ ライザ		※無線のみ対象 注1 無変調状態 注2 変調状態

「個別点検」 3-21 テレメータ監視局装置(災害対策タイプ1: 新スプリアス規格準拠)(2/2)

						点検	周期					
No.	確認事」	質の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ	2 ケ	3 ケ	6 ケ	12 ケ	使用測定器等	点検目的の概要	備考
8	受信入力電	江 力確認	相手局 スペークトラムアナライザー 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認		月_	月	月	月	月	スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		
9	区間S/N	「の確認	変した。 発振器					0		低周波発振器、レベル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
10	電池の確認	,	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換 する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
11	受信データ	の確認	手動で個別観測制御を行い、収集したデータとセンサとのデータの照合を行う。					0			装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
12	通話機能確	認	各観測局、中継局と通話が行えることを確認する。					0			測定結果の変化傾向の把握	通話機能付きの場合のみ
13	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
14	空中線確認	外観の確 認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器 (また は通過形電力計)		
15	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
16	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
17	図書類・予 認	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-22 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ1)(V-V中継: 新スプリアス規格準拠)(1/2)

	別点候」 3 - 2 2 /	レグ・ク中枢用表直(火音対象クイノエ)(V ̄V中枢・利ヘノリ	Ĺ	701H		周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信周波数確認	周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器			
5	不要輻射強度確認	無線機 減衰器						0	スペクトラムアナ ライザ		※無線のみ対象 注1 無変調状態 注2 変調状態	

「個別点検」 3-22 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ 1)(V-V中継:新スプリアス規格準拠)(2/2)

		, ,	レグーク 中枢周表直(灰舌対泉グイノ1)(V ̄V 中枢:利ヘノリ	<u> </u>	961H 1		周期					
No.	確認事項	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
6	スケルチ感	注度確認	信号発生器 無線機 標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを 確認する。					0		標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	2 台構成の場合、S Qを同レベルに調整する必要がある。
7	受信入力電	立力確認	相手局 スペックトラムアナライザ 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		
8	区間S/N	「の確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、受 信感度の確認を行う。
9	中継制御部		受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					0				
10	遠隔切換部	『動作確認	監視局からの制御信号により送信機の切替動作が正常である ことを確認する。					0				
11	状態返送部	『動作確認	中継局の各種動作状態を監視局に返送し、その動作が正常であることを確認する。					0				
12	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
13	空中線確認	外観の確認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
14	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
15	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
16	図書類・予 認	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-23 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ 1) $(\mu-V$ 中継: 新スプリアス規格準拠) (1/2)

	<u> </u>	レグ・ク 中枢 用 表直 (火音 対	点検周期									
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信周波数確認	周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器			
5	不要輻射強度確認	無線機 減衰器						0	スペクトラムアナ ライザ		※無線のみ対象 注1 無変調状態 注2 変調状態	

「個別点検」 3-23 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ 1)($\mu-V$ 中継:新スプリアス規格準拠)(2/2)

	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1		周期					
6 スク	ケルチ感度確認		日	ケ月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
		信号発生器 無線機 標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを確認する。					0		標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	2 台構成の場合、S Q を同レベルに調整する必要がある。
7 受信	信入力電力確認	相手局 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		
8 区間	間S/Nの確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、受 信感度の確認を行う。
9 中継	継制御部動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					0				
10 外部認	部入出力部動作	外部信号により送信機の切替等の動作ができるとともに、中継局の動作状態を正常に出力することを確認する。					0				
11 伝搬	搬路の見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
12 空 中確認		剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			
	給電線 確認	ク ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。 						0			
	VSW 確認	ス 反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
13 接続	続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
14 機器	器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
15 図書	書類・予備品等の	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-24 テレメータ観測局装置(災害対策タイプ1:新スプリアス規格準拠)(1/2)

	がは、 3 - 2 4 /	レグニク戦側用表直(火音対象クイノ1・利ヘノリテへ脱俗中拠)	(- /			周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信周波数確認	周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器			
5	不要輻射強度確認	無線機 減衰器						0	スペクトラムアナ ライザ		※無線のみ対象 注1 無変調状態 注2 変調状態	

「個別点検」 3-24 テレメータ観測局装置(災害対策タイプ1:新スプリアス規格準拠)(2/2)

						点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ヶ 月	2 ケ 月	3 ケ	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
6	受信入力電	 直力確認	相手局 スペークトラムアナライサー スペークトラムアナライサー 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	
7	区間S/N	の確認	発振器 発振器 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
8	動作確認		観測装置を構成する各部の動作の確認を行う。					0				
9	電池の確認	P.	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換 する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0			装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
11	空中線確認	外観の確認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0		測定結果の変化傾向の把握	
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		VSWR 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
12	接続部の確	崔認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
13	水位計ま 等の確認	たは雨量計	センサとA/D変換器、記録計の連動動作を確認する。 (水位は量水標と比較する。)					0				
			A/D変換器の動作を確認する。 000~999 の各桁を 10 ステップ確認する。					0				
14	機器本体の)清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
15	図書類・予 認	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-25 テレメータ監視局装置(災害対策タイプ2)(1/2)

		* / / 皿加州家臣 (八日州来/ / 日/ 1/ 1/ 1/			点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	印字記録確認	欠測、障害記録の有無を確認する。	0							測定結果の変化傾向の把握	必要に応じてインクリボンの 交換を行う。
3	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタにより測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ		
4	送信出力確認	無線機電力計					0		通過型電力計		
5	送信周波数確認	電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。 周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計		
6	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終 端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定変調周波数は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器		
7	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯:1mW以下であり、かつ基本波の平均電力より60dB以上低いこと。 400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナライザまたは電界強度測定器		

「個別点検」 3-25 テレメータ監視局装置(災害対策タイプ2)(2/2)

		0 20 /	レメーク監視用装直(火音対象タイプ 2)(2/2)			点検	周期					
No.		項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
8	受信入力管	電力確認	相手局 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	
9	区間S/]	Nの確認	発振器 無線機 無線機 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
10	電池の確認	認	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換 する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
11	システ ム機能 の確認	御確認個別観測制	手動で全局観測制御を行い、全ての観測局から応答信号が正常 に返送されることを確認する。 手動で個別観測制御を行い、観測局からの応答信号を確認す					0 0			装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	
		御確認 プリンタ制 御	る。 全局観測や個別観測により正常に印字記録を行うことを確認 する。					0				
		中継局制御	手動で中継局の起動/停止制御及び送信機の切り替え制御を 行い、動作が正常であることを確認する。 また、応答信号が正常に返送されることを確認する。					0				
		その他	呼出時間間隔の変更が行えることを確認する。					0				
12	受信データ	タの確認	手動で個別観測制御を行い、収集したデータとセンサとのデータの照合を行う。					0				
13	通話機能研	確認	各観測局、中継局と通話が行えることを確認する。					0				通話機能付きのみ
14	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
15	空中線確認	外観の確認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
16	接続部の研	確認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
17	機器本体の	の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
18	図書類・ 認	予備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-26 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ2)(V-V中継)(1/2)

	5 20 /	レグ ケ 〒			点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月		12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテスタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信周波数確認	周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器			
5	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯:1mW以下であり、かつ基本波の平均電力より60dB 以上低いこと。 400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器			

「個別点検」 3-26 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ2)(V-V中継)(2/2)

. 115	別点筷」	0 20 /	レメータ中継向装直(災害対策タイプ 2)(V=V甲継)(2/2)	1		占給	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	か ク 月	3 ケ	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
6	スケルチ屋		信号発生器 無線機 標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを確認する。					0		標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	2台構成の場合、SQを同レベルに調整する必要がある。
7	受信入力電	 力確認	オートラムアナライザ スペークトラムアナライザ 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		
8	区間S/N	の確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、受 信感度の確認を行う。
9	中継制御部		受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					0				
10	遠隔切換部	『動作確認	監視局からの制御信号により送信機の切替動作が正常である ことを確認する。					0				
11	状態返送部	『動作確認	中継局の各種動作状態を監視局に返送し、その動作が正常であることを確認する。					0				
12	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
13	空中線確認	外観の確 認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(また は通過形電力計)		
14	接続部の確		接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
15	機器本体の)清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
16	図書類・子 認	備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-27 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ 2) ($\mu-V$ 中継) (1/2)

					点椅	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月		6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信周波数確認	周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
4	最大周波数偏移確認							0	FM直線検波器、低 周波発振器			
5	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯:1mW以下であり、かつ基本波の平均電力より60dB以上低いこと。 400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナライザまたは電界強度測定器			

「個別点検」 3-27 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ2) $(\mu-V$ 中継) (2/2)

1 1 1	別尽愽」	0 21 /	レヌータ中継向装直(災害対東ダイノ2)(μ – V 中継)(2 / 2, 	Ī		点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ヶ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
6	スケルチ原	戍度確認	信号発生器 無線機 標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを確認する。					0		標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	2 台構成の場合、S Qを同レベルに調整する必要がある。
7	受信入力電	重力確認	相手局 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		
8	区間S/N	いの確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、受 信感度の確認を行う。
9	中継制御部	邓動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					0				
10	外部入出 認	力部動作確	外部信号により送信機の切替等の動作ができるとともに、中継 局の動作状態を正常に出力することを確認する。					0				
11	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
12	空中線確認	認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
13	接続部の確	雀 認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
14	機器本体の)清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
15	図書類・予 認	予備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-28 テレメータ観測局装置(災害対策タイプ2)(1/2)

	5 2 6 7	アプー / 航沢/内衣巨(火石//水ノ・ ノ 乙)(1 / 乙)			点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ヶ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信周波数確認	周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器			
5	不要輻射強度確認	無線機 方向性結合器 終端 スペクトラムアナライザ等で測定し基準値内であることを確認する。 測定箇所は、nfo、1/2nfo、(n-1)fo、(n-2)fo、(n+1)fo、(n+2)fo、2nfo、3nfoとする。 70MHz 帯:1mW以下であり、かつ基本波の平均電力より60dB 以上低いこと。 400MHz 帯:2.5μW以下。(ただし、1Wの場合は1μW以下)						0	スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器			
6	受信入力電力確認	相手局 オープリング オール・フェール オール・フェール オール・フェール オール・フェール オール・フェール オール・フェール オール・フェール オール・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器			

「個別点検」 3-28 テレメータ観測局装置(災害対策タイプ2)(2/2)

			レア・ノ 町間川衣巨(八日州水ノコノ 2)(2/2)			点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ヶ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
7	区間S/N	Nの確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベル計	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
8	動作確認		観測装置を構成する各部の動作の確認をする。					0				
9	電池の確認	200	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換 する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0			装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
11	空中線確認	外観の確認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0		測定結果の変化傾向の把握	
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		VSWR 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器 (また は通過形電力計)		
12	接続部の確	雀認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
13	水位計ま 等の確認	たは雨量計	センサとA/D変換器、記録計の連動動作を確認する。 (水位は量水標と比較する。)					0				
			A/D変換器の動作を確認する。 000〜999 の各桁を 10 ステップ確認する。					0				
14	機器本体の)清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
15	図書類・予 認	予備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-29 テレメータ監視局装置(災害対策タイプ2:新スプリアス規格準拠)(1/2)

	1 2 2 7	マアー/ 皿店用家臣(外古州家ノコノ 2・州ハノリ)ハが旧中に				周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	ケ	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	印字記録確認	欠測、障害記録の有無を確認する。	0							測定結果の変化傾向の把握	必要に応じてイン。 交換を行う。	クリボンの
3	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタにより測定する。					0		自蔵計器またはテスタ) (D) (C) (V)	
4	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計			
5	送信周波数確認	無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
6	最大周波数偏移確認							0	FM直線検波器、低 周波発振器			
7	不要輻射強度確認	無線機 減衰器						0	スペクトラムアナライザ		※無線のみ対象 注1 無変調状態 注2 変調状態	

「個別点検」 3-29 テレメータ監視局装置(災害対策タイプ2:新スプリアス規格準拠)(2/2)

	3 3 3 1 1 1 1 2 1	0 20 /	レメーク監視用表直(火吉刈束グイノ2:세ヘノリテへ就俗中拠)		/ _ /		角期					
No.		事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月		12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
8	受信入力	電力確認	相手局 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	
9	区間S/	Nの確認	発振器 無線機 無線機 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
10	電池の確	認	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換 する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
11	システ ム機能 の確認		手動で全局観測制御を行い、全ての観測局から応答信号が正常に返送されることを確認する。					0			装置の正常動作の確認標準値(規格値)との照合	
	の作派	個別観測制 御確認	手動で個別観測制御を行い、観測局からの応答信号を確認する。					0			測定結果の変化傾向の把握	
		プリンタ制 御	全局観測や個別観測により正常に印字記録を行うことを確認する。					0				
		中継局制御	手動で中継局の起動/停止制御及び送信機の切り替え制御を 行い、動作が正常であることを確認する。 また、応答信号が正常に返送されることを確認する。					0				
		その他	呼出時間間隔の変更が行えることを確認する。					0				
12	受信デー	タの確認	手動で個別観測制御を行い、収集したデータとセンサとのデータの照合を行う。					0				
13	通話機能	確認	各観測局、中継局と通話が行えることを確認する。					0				通話機能付きのみ
14	伝搬路の	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
15	空中線確認	外観の確認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		V S W R 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
16	接続部の	確認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
17	機器本体	の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
18	図書類・ ⁻ 認	予備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-30 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ2)(V-V中継: 新スプリアス規格準拠)(1/2)

	<u> </u>	レグ・ク中枢用表直(火音対象クインと)(V ̄V中枢・利ヘンリ	Ĺ	7211		周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信周波数確認	周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器			
5	不要輻射強度確認	無線機 減衰器 が						0	スペクトラムアナ ライザ		※無線のみ対象 注1 無変調状態 注2 変調状態	

「個別点検」 3-30 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ2)(V-V中継: 新スプリアス規格準拠)(2/2)

		3 0 0 /	レグーク 中枢 同表直(灰音対象タイプ 2)(V - V 中枢:利ベブリ 	<u> </u>	/961H		問期					
No.	確認事項	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
6	スケルチ感	遂度確認	信号発生器 無線機 標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを確認する。					0		標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	2 台構成の場合、S Q を同レベルに調整する必要がある。
7	受信入力電	 力確認	相手局 スペークトラムアナライザ 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		
8	区間S/N	「の確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、受 信感度の確認を行う。
9	中継制御部		受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					0				
10	遠隔切換部	了動作確認	監視局からの制御信号により送信機の切替動作が正常である ことを確認する。					0				
11	状態返送部	了動作確認	中継局の各種動作状態を監視局に返送し、その動作が正常であることを確認する。					0				
12	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
13	空中線確認	外観の確認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
14	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
15	機器本体の	清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
16	図書類・予 認	が備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-31 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ 2) ($\mu-V$ 中継: 新スプリアス規格準拠)(1/2)

	が	レグ・ク中枢用表直(灰音対象クイラス)(μ - V 中枢・利ヘラリ		, = . m		周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	無線機 電力計 電力計 電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。					0		通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握		
3	送信周波数確認	周波数計 無線機 方向性結合器 終端 周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内 400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内					0		周波数計			
4	最大周波数偏移確認	FM 直線検波器 発振器 無線機 方向性結合器 終端 直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。 測定箇所は、1kHz、3kHz とする。 70MHz 帯: ±5kHz 以内 400MHz 帯: ±2.5kHz 以内						0	FM直線検波器、低 周波発振器			
5	不要輻射強度確認	無線機 減衰器						0	スペクトラムアナ ライザ		※無線のみ対象 注1 無変調状態 注2 変調状態	

「個別点検」 3-31 テレメータ中継局装置(災害対策タイプ 2)($\mu-V$ 中継:新スプリアス規格準拠)(2/2)

	確認事項の概要ケルチ感度確認	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	周期					
6 スケ	ケルチ感度確認		日	ケ 月	ケ月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
		標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを 確認する。					0		標準信号発生器	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	2 台構成の場合、S Qを同レベルに調整する必要がある。
7 受信	言入力電力確認	相手局 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		
8 区間	間S/Nの確認	発振器 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					0		低周波発振器、レベ ル計		S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、受 信感度の確認を行う。
9 中継	迷制御部動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					0				
10 外部認	部入出力部動作確	外部信号により送信機の切替等の動作ができるとともに、中継 局の動作状態を正常に出力することを確認する。					0				
11 伝搬	般路の見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0				
12 空中確認	認認認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確認する。						0			
	給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
	VSWR 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
13 接続	売部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
14 機器	器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
15 図書 認	書類・予備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-32 テレメータ観測局装置(災害対策タイプ2:新スプリアス規格準拠)(1/2)

	,	レクーク観測用表直(火音対象タイプ 2: 利ヘブリテへ放俗 単拠) 	(1)	, _,		周期						
	カジャでの原子			1	2	3	6	12			/++-	+*
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
			П	月	月	月	月	月				
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					0		自蔵計器またはテ	装置の正常動作の確認		
2	送信出力確認	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\					0		スタ 通過型電力計	標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握		
	10日11月77年前									例是相不少及信候同少信控		
		無線機 電力計 □										
		電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。										
3	送信周波数確認	周波数計					0		周波数計			
		無線機 方向性結合器 終 端										
		70MHz 带: ±5×10 ⁻⁶ 以内										
		400MHz 帯:±3×10 ⁻⁶ 以内										
4	最大周波数偏移確認	FM直線検波器						0	FM直線検波器、低			
									周波発振器			
		発振器 無線機 方向性結合器 終端										
		直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。										
		測定箇所は、1kHz、3kHzとする。										
		70MHz 带: ±5kHz 以内										
		400MHz 帯:±2.5kHz 以内										
5	不要輻射強度確認	├						0	スペクトラムアナ ライザ		※無線のみ対象 注1 無変調状態	
		無線機 減衰器 →							71 7		注 1 無 2 調 次 態 注 2 変 調 状 態	
		搬送波抑圧									江2 交响化层	
		発振機フィルタ										
		スペクトラムアナライザで測定し基準値内であることを確認										
		する。搬送波抑圧フィルタは必要に応じて使用する。										
		[帯域外領域における不要発射強度(注1)] 70MHz 帯:1mW 以下、かつ、基本周波数の平均電力より60dB(基										
		本周波数が 70MHz 以下の場合は 80dB) 以上低いこと。										
		(ただし、1W以下の場合は100μW以下)										
		400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は25μW以下)										
		[スプリアス領域における不要発射強度(注2)]										
		70MHz 帯:基本波の搬送電力より 60dB 以上低いこと。 (ただし、1W 以下の場合は 50 μ W 以下)										
		(たたし、IW以下の場合は30μW以下) 400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、IW以下の場合は25μW以下)										
6	受信入力電力確認	V					0		スペクトラムアナ			
		相手局 スペックトラムアナライサ							ライザまたは電界			
		18.4.77							強度測定器			
		対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。										
<u> </u>		ソ ′					l					

「個別点検」 3-32 テレメータ観測局装置(災害対策タイプ2:新スプリアス規格準拠)(2/2)

						点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ	2 ケ	3 ケ	6 ケ	12 ケ	使用測定器等	点検目的の概要	備考
7	区間S/N	Nの確認	発振器 レベル計 対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。		月	月	月	月 〇	月	低周波発振器、レベル計	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
8	動作確認		観測装置を構成する各部の動作の確認をする。					0				
9	電池の確認	F.	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換 する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	伝搬路の見	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					0			装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
11	空中線確認	外観の確認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0		測定結果の変化傾向の把握	
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		VSWR 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
12	接続部の確	筆認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
13	水位計また 等の確認	たは雨量計	センサとA/D変換器、記録計の連動動作を確認する。 (水位は量水標と比較する。)					0				
			A/D変換器の動作を確認する。 000~999 の各桁を 10 ステップ確認する。					0				
14	機器本体の	. 1134/13	機器本体の内外面を清掃する。					0			周囲環境を考慮した機能維持	
15	図書類・予 認	・ 備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 3-33 テレメータ監視局装置(自律型)

		レメータ監視向装直(日拝型)			占給	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	—— 毎 日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					*	0	自蔵計器またはテ スタ	測定結果の変化傾向の把握	
3	受信入力電力確認	相手局 カースペークトラムアナライザー 前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					*	0	スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		※無線のみ対象
4	区間S/Nの確認	発振器 レベル計 前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。					*	0	低周波発振器、レベル計		※無線のみ対象 S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、ス ケルチ感度、受信感度の確認を 行う。
5	電池の交換	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換 する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
6	システム 機能の確認 全局観測 確認 システム 状態確認 時刻の確認 認 認	観測データ現況表示画面にて、全ての観測局から送信信号を正常に受信することを確認する。 システム監視画面にて、観測局や中継局との通信状況や中継状態、上位装置との通信状態を確認する。 NTP または GPS で時刻が日本標準時刻に合っていることを確認する。					* *	0 0		装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	
7	受信データの確認	収集したデータとセンサとのデータの照合を行う。					*	0			
8	伝搬路の見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					*	0			※無線のみ対象
9	空中線 外観の確 確認 認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。						0			※無線のみ対象
	給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
10	GPS 7ンテナ外観の確認確認認給電線の	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等を確認する。 ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			GPSアンテナを取り付けた場合のみ
12	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
13	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					*	0		周囲環境を考慮した機能維持	
14	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
	her.	予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

※設置環境、重要性に応じて実施

「個別点検」 3-34 テレメータ中継局装置(自律型)(V-V中継:新スプリアス規格準拠)(1/3)

. 115	別点検] 3-34 ア 	レメータ中継向装直(目律型)(V=V甲継:新スプリアス規格単 	1/2/	(1/		田田						
						周期	0	10				
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
			日	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	***************************************			
				月	月	月	月	月				
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					*	0	自蔵計器またはテ	装置の正常動作の確認		
									スタ	標準値(規格値)との照合		
2	送信出力確認	177					*	0	通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象	
		┌── ─ ┌ ──────────────────────────────										
		┃ 無線機 ┃ 電力計 ┃ □										
		電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。										
3	送信周波数確認						*	0	周波数計		※無線のみ対象	
		周波数計										
		■ 無線機 ■ 方向性結合器 ■ 終端										
		周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。										
		70MHz 帯:±5×10 ⁻⁶ 以内										
		400MHz 帯: ±3×10 ⁻⁶ 以内										
4	最大周波数偏移確認							0	FM直線検波器、		※無線のみ対象	
		FM 直線検波器							低周波発振器			
		│ │ 発振器										
		直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。										
		測定箇所は、1kHz、3kHz とする。										
		70MHz 帯:±5kHz 以内										
		400MHz 帯: ±2.5kHz 以内										
5	不要輻射強度確認							0	スペクトラムアナ		※無線のみ対象	
		無線機 減衰器							ライザ		注1 無変調状態	
											注2 変調状態	
		搬送波抑圧										
		発振機 フィルタ フィルタ Total Tota										
		スペクトラムアナライザで測定し基準値内であることを確認										
		する。搬送波抑圧フィルタは必要に応じて使用する。										
		[帯域外領域における不要発射強度(注1)]										
		70MHz 帯: 1mW 以下、かつ、基本周波数の平均電力より 60dB(基										
		本周波数が 70MHz 以下の場合は 80dB) 以上低いこと。										
		(ただし、1W以下の場合は100μW以下)										
		400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は25μW以下)										
		[スプリアス領域における不要発射強度(注2)]										
		70MHz 帯:基本波の搬送電力より 60dB 以上低いこと。										
		(ただし、1W以下の場合は50μW以下)										
		400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は25μW以下)										
\•∕ ≑n	 품環境 重悪性に広じて		<u> </u>								I .	

※設置環境、重要性に応じて実施

「個別点検」 3-34 テレメータ中継局装置(自律型)(V-V中継:新スプリアス規格準拠)(2/3)

	別点検」	5 04 /	レメータ中継局装直(目律型)(V-V中継:新スプリアス規格理 	1/2/	(2)		周期						
					1	2	3	6	12				
No.	確認事具	頁の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	<i>\f</i>	ケ	ケ	ケ	ケ	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
				日	月		月		月				
6	スケルチ原	度確認			/1	/1	/1	*	0	標準信号発生器	装置の正常動作の確認	※無線のみ対象	
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	VI PILIPE	信号発生器無線機					·• \)	W I II O YE TIN	標準値(規格値)との照合	2 台構成の場合、S	Ωを同レベ
			THE OF THE								測定結果の変化傾向の把握	ルに調整する必要が	
			標準信号発生器により測定する。								34,2,0,0		0
			システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを										
			確認する。										
7	受信入力電	力確認	\square \square \square \square					*	0	スペクトラムアナ		※無線のみ対象	
			相手局							ライザまたは電界			
			12.77							強度測定器			
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認										
			する。 						-				
8	区間S/N	「の確認						*	0	低周波発振器、レベ		※無線のみ対象	er
			発振器 □ 							ル計		S / N が 大幅 に 変!	
												場合は、各部のレベ	
			対向間で測定し、前回値に対して大幅な変動がないことを確認									信感度の確認を行う) 。
9	GPS 装置受	后在河	する。 GPS 装置が受信していることを LED 等の表示で確認する。					*	0				
9	673 表画文	1百4性於	しいる表色が文信していることをLED 寺の衣小で帷記する。					**	0				
10	中継制御部	動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に					*	\circ			※無線のみ対象	
10	1.450113.154.11	1301 LAEDO	よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。					^	0			\(\lambda \) \(\l	
			(擬似故障を含む)										
11	自律動作確	認	GPS により決められた時間に自律起動し、中継動作した後停止					*	0			※無線のみ対象	
	- 11 2411 112	-,	することを確認する。					,•.	0			7447110044 - 774444	
12	状態返送部	動作確認	中継局の各種動作状態を監視局に返送し、その結果が正常であ					*	0				
			ることを確認する。										
13	伝搬路の見	通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					*	0			※無線のみ対象	
14	空中線	外観の確	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の						0			※無線のみ対象	
	確認	認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確										
			認する。										
		給電線の	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0				
		確認											
		VSWR	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						\circ	定在波測定器(また			
		確認								は通過形電力計)			
15	GPS アンテナ	外観の確	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の						0			GPSアンテナを取り付け	た場合のみ
	確認	認	剥離状態等を確認する。	<u> </u>									
		給電線の	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0				
	Left Arts Lass .c1	確認	letrical). In the life of the letrical content of the										
16	接続部の確	認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0				
		日出っ よい イ											

「個別点検」 3-34 テレメータ中継局装置(自律型)(V-V中継:新スプリアス規格準拠)(3/3)

					点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	借	老
110.	唯心于:只少风久	下来小天旭起西、天平町万石	口口	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	区/11区/正面 寸		VITS	,
			П	月	月	月	月	月				
17	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					*	0		周囲環境を考慮した機能維持		
18	図書類・予備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え		
	認											
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0				

[※]設置環境、重要性に応じて実施

「個別点検」 3-35 テレメータ中継局装置(自律型)(V-μ及びV-I中継)

	加杰换」		レグ・グ 〒			点検	周期					
No.	確認事	項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	各部電圧・	• 電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。		,,	,,	,,	*	0	自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	
2	スケルチ原	感度確認	信号発生器 無線機 標準信号発生器により測定する。 システム毎に設定された値でスケルチがオープンすることを 確認する。					*	0	標準信号発生器	測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象 2 台構成の場合、S Qを同レベルに調整する必要がある。
3	受信入力電	電力確認	相手局					*	0	スペクトラムアナ ライザまたは電界 強度測定器		※無線のみ対象
4	区間S/N	Vの確認	発振器					*	0	低周波発振器、レベル計		※無線のみ対象 S/Nが大幅に変動している 場合は、各部のレベル測定、受 信感度の確認を行う。
5	中継制御部	邓動作確認	受信機出力の中継動作、受信機の故障検出及び送信機の故障に よる自動切替制御等の動作が正常であることを確認する。 (擬似故障を含む)					*	0			※無線のみ対象
6	外部入出 認	力部動作確	中継局の動作状態を正常に出力することを確認する。					*	0			※無線のみ対象V - μ 中継のみ対象
7	伝搬路の身	見通し確認	局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					*	0			※無線のみ対象
8	空中線確認	外観の確 認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確認する。						0			※無線のみ対象
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
9	接続部の確	在認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
10	機器本体の	の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。					*	0		周囲環境を考慮した機能維持	
11	図書類・予 認	予備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			
		田州アウドブ								l .		

「個別点検」 3-36 テレメータ観測局装置(自律型:新スプリアス規格準拠)(1/2)

		· / / 则风闲双色(日午至· /// / / / / / / / / / / / / / / / / /			点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
100.	唯心事気の似女	日来の天施魁団、兵体の万伝	日	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	灰 用例足备守	点便 日 时 0 7 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	VHI 4	5
			П	月	月	月	月	月				
1	各部電圧・電流確認	各部の電圧/電流を自蔵計器またはテスタ等により測定する。					*	\circ	自蔵計器またはテ	装置の正常動作の確認		
	V/ /= 11 / 1						\•/		スタ	標準値(規格値)との照合	\0.4 free fails as yet 1,1 fz.	
2	送信出力確認	77					*	0	通過型電力計	測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象	
		無線機電力計										
		※※例が7支										
		電力計で測定し、指定電力±10%以内であることを確認する。										
3	送信周波数確認	周波数計					*	0	周波数計		※無線のみ対象	
		無線機 方向性結合器 糸 端										
		田油料引べ即ウン 甘油は中ベナファルナカコーフ										
		周波数計で測定し、基準値内であることを確認する。 70MHz 帯: ±5×10 ⁻⁶ 以内										
		400MHz 带: ±3×10 ⁻⁶ 以内										
4	最大周波数偏移確認							0	FM直線検波器、		※無線のみ対象	
		FM 直線検波器							低周波発振器			
		発振器 無線機 方向性結合器 終端										
		直線検波器等で測定し、基準値内であることを確認する。										
		測定箇所は、1kHz、3kHz とする。										
		70MHz 帯:±5kHz 以内										
		400MHz 帯: ±2.5kHz 以内										
5	不要輻射強度確認							0	スペクトラムアナ ライザ		※無線のみ対象	
		無線機 減衰器							フイザ		注1 無変調状態 注2 変調状態	
		搬送波抑圧									任2 发胸状态	
		発振機										
		スペクトラムアナライザで測定し基準値内であることを確認										
		する。搬送波抑圧フィルタは必要に応じて使用する。										
		[帯域外領域における不要発射強度(注1)]										
		70MHz 帯: 1mW 以下、かつ、基本周波数の平均電力より 60dB(基										
		本周波数が 70MHz 以下の場合は 80dB)以上低いこと。 (ただし、1W 以下の場合は 100 uW 以下)										
		(たたし、IW以下の場合は100μW以下) 400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、IW以下の場合は25μW以下)										
		「スプリアス領域における不要発射強度(注2)]										
		70MHz 帯:基本波の搬送電力より 60dB 以上低いこと。										
		(ただし、1W以下の場合は50μW以下)										
		400MHz 帯: 2.5μW以下。(ただし、1W以下の場合は25μW以下)										
\•∕ ≘л	置環境 重要性に広じて	+ - + + - + + - + + - + - + + + + + + + + + + + + + + + + + + +										

「個別点検」 3-36 テレメータ観測局装置(自律型:新スプリアス規格準拠)(2/2)

	/小小小英」 (アプリア 開開内表色(日平主・州ハノリ)へが情中地)(2/2)			点検	周期					
No.	確認事」	頃の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備考
110.	h联协门 争。	只小阪女	下来や人心を起これが行	日日	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	汉/11837年前4		g
6	区間S/N	1 ○ 7 左⇒刃	777 777		月	月	月	月 ※	月	低周波発振器、レベ	装置の正常動作の確認	※無線のみ対象
О	区則5/1/	10万唯心						**	0	低同放発振器、レハ ル計	装直の正吊動性の確認 標準値(規格値)との照合	×無縁のみ対象 S/Nが大幅に変動している
			発振器 - レベル計							7 · H1	測定結果の変化傾向の把握	場合は、各部のレベル測定、ス
			前回値に対して大幅な変動がないことを確認する。									ケルチ感度、受信感度の確認を
	and Arma	<i>l⇒</i>	and the state of t									行う。
7	GPS 装置受	116 傩祕	GPS 装置が受信していることを LED 等の表示で確認する。						0			
8	動作確認		観測装置を構成する各部の動作試験をする。					*	0			
9	電池の確認	,	バックアップ電池の交換周期を確認し、対象となるものは交換						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	广柳坡の日	`A <i>The</i> 表別	する。 局舎周囲において伝搬路上の樹木成長等を確認する。					\ • ⁄			大男の子 労動 <i>作の作</i> 却	ツ無約のでは存
10	伝搬路の見	上地 レ傩祕	同害周囲において伝搬路上の個个放長寺を確認する。					*	0		装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	※無線のみ対象
11	空中線	外観の確	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の						0		測定結果の変化傾向の把握	※無線のみ対象
	確認	認	剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確 認する。									
		給電線の 確認	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
		VSWR 確認	反射波を測定し、空中線系との整合を確認する。						0	定在波測定器(または通過形電力計)		
12	GPS アンテナ 確認	外観の確 認	空中線・取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の 剥離状態等を確認する。						0			
	•	給電線の	ケーブルの劣化、布設状態の確認をする。						0			
	11.41.1	確認							_			
13	接続部の確		接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態の確認をする。						0			
14	水位計ま7 等のデータ	たは雨量計 'の確認	センサとA/D変換器、記録計の連動動作を確認する。 (水位は量水標と比較する。)					*	0			
			A/D変換器の動作を確認する。					*	0			
	DE PROCE)+ I = 66	000~999 の各桁を 10 ステップ確認。								Property and the control of the cont	
15	機器本体の)	機器本体の内外面を清掃する。					*	0		周囲環境を考慮した機能維持	
16	図書類・予 認	・備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
			予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			
		エロン・ナンシー		1								

「個別点検」 4-1 蓄積同報装置

					点検	周期						
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	通信記録の確認	通信量、未着信量等の把握をする。						0	ジャーナルプリン タ	装置の正常動作の維持 標準値(規定値)との照合		
2	受信チャンネルの動 作確認	受信チャンネルの半数以上を同時に使用し動作を確認する。						0		測定結果の変化傾向の把握		
3	送信チャンネルの動 作確認	送信チャンネルの半数以上を同時に使用し動作を確認する。						0				
4	信号レベル確認	送信チャンネル及び受信チャンネルの信号レベルの測定を行い確認する。						0	レベル計			
5	消耗品の補充等	消耗品の補充が必要な場合は補充する。						0				
6	接続部の確認	コネクタ、プラグイン及び端子等の緩みの確認をする。						0				
7	機器本体の清掃等	エアーフィルタの清掃、機器内外面の清掃をする。						0		周囲環境を考慮した機能維持		
8	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え		
		予備品類の保管状況、数量等を確認する。						0				

「個別点検」 5-1 画像符号化装置

					点検	周期						
No	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法等	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
110	Ample 1. V. Mex	TI NO SOME PERMIT STATES OF	日	ケ	ケ	ケ	ケ	ケ	(X) 13 (G) (C HH)	WY HEAT OF ME	VIII	,
				月	月	月	月	月				
1	音声の確認	基準信号により音声レベルの確認を行い、出力レベルが基準値						0	レベルメータ	装置の正常動作の確認		
		の範囲内であることを確認する。								標準値(規定値)との照合		
2	映像の確認	映像が正常に伝送されているか確認する。						0	モニタ	測定結果の変化傾向の把握		
3	装置の動作確認	通信モード等の設定変更を行い、操作パネルからの制御が確実						0				
		に実施できることを確認する。										
4	FANの確認	制御部のFANが正常に回転しているかを確認する。						0				
		また、FAN周辺が汚れている場合は清掃する。										
5	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態を確認する。						0				
6	機器本体の清掃等	装置外面の清掃及び装置の取り付け状態の確認をする。						0		周囲環境を考慮した機能維持		
7	図書類・予備品等の確	取扱説明書、試験成績書の保管状況及び予備品等の数量を確認						0		障害時の備え		
	認	する。										

「個別点検」 5-2 ІРコーデック (ІРエンコーダ、ІРデコーダ)

No.					点検	周期						
1 =	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1 =	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		日	ケ 月	ケ 月	ケ月	ケ 月	ケ 月				·
	表示の確認	装置のLEDにより障害表示の有無を目視確認する。	0	Э	Я	Я	Я	Я		装置の正常動作の確認		
	No. 1 . 1 Market	WENDED TO NET TO A TIME HOUSE OF THE PER STATE OF THE PER								標準値(規定値)との照合		
2 音	音声の確認	基準信号により音声レベルの確認を行い、出力レベルが基準値						0	レベルメータ	測定結果の変化傾向の把握		
		の範囲内であることを確認する。										
3 関	映像の確認	映像が正常に伝送されているか確認する。						0	モニタ			
4 F	FANの確認	装置本体のFANが正常に回転しているかを確認する。						0				
		また、FAN周辺が汚れている場合は、清掃する。										
5 接	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子等の接続状態を確認する。						0				
6 梯	機器本体の清掃等	装置外面の清掃及び装置の取り付け状態の確認をする。						0		周囲環境を考慮した機能維持		
	図書類・予備品等の確 認	取扱説明書、試験成績書の保管状況及び予備品等の数量を確認 する。						0		障害時の備え		

「個別点検」 6-1 直流電源装置(多重無線設備用(触媒栓付))

		也所及已(夕至////////////////////////////////////			点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認	標準値 (規定値) は試験成績書 を確認する。
2	環境の確認	運転環境(温度、湿度、埃、換気スペース、結露等)を五感及 び温湿度計にて確認する。						0	温湿度計	周囲環境を考慮した機能維持	アルカリ用、鉛用の保守用器具 は混用しないこと。
3	内部の確認	装置内の使用部品類を目視、触手、嗅覚、聴覚及び温度計で確認する。						0	放射温度計	装置の正常動作の確認 標準値(規定値)との照合	※印は3年点検時での実施内容とする。
4	絶縁抵抗の測定	交流入力、直流出力の絶縁抵抗を測定し、標準値以上であることを確認する。						*	絶縁抵抗計	測定結果の変化傾向の把握	
5	使用状態の確認	計測表示について標準計器と比較し標準値以内にあることを 確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ	-	
6	入出力特性の確認	入力 (電圧、電流、周波数)、出力 (電圧、電流) を測定し標準値以内であることを確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ	-	
7	蓄電池の確認	蓄電池の外観(電槽の温度、欠損、損傷、液漏れ、接続部の腐 食)を確認する。						0			
		蓄電池の液面を各セル毎に点検し、適正値にあることを確認する。なお、不足の場合は補水する。						0			
		蓄電池電圧を各セル毎に測定し、標準値以内であることを確認 する。なお、充電が必要な場合は均等充電をする。						0	テ゛シ゛タルマルチメータ		
		蓄電池の比重及び液温をパイロットセル毎に測定し、標準値以 内であることを確認する。 なお、充電が必要な場合は均等充電をする。						0	比重計、温度計		
		蓄電池の触媒栓交換推奨時期及び蓄電池の交換推奨時期を確認する。						0			
8	動作の確認	正常時における停止、運転、1号-2号切替の動作状態、表示、 外部警報を確認する。						*			
		保護動作時における各故障動作時の状態、表示、外部警報を確認する。						*			
9	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

アルカリ蓄電池の電解液比重は充放電により変化はなく、比重は20℃で1.20(許容範囲1.17~1.23)が標準値である。

「個別点検」 6-2 直流電源装置(多重無線設備用(MSE形等))

		电冰衣但(夕至灬阶以闸川(MIO L IV 寸//			点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ヶ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認	標準値 (規定値) は試験成績書 を確認する。
2	環境の確認	運転環境(温度、湿度、埃、換気スペース、結露等)を五感及 び温湿度計にて確認する。						0	温湿度計	周囲環境を考慮した機能維持	※印は3年点検時での実施内
3	内部の確認	装置内の使用部品類を目視、触手、嗅覚、聴覚及び温度計で確 認する。						0	放射温度計	装置の正常動作の確認 標準値(規定値)との照合	容とする。
4	絶縁抵抗の測定	交流入力、直流出力の絶縁抵抗を測定し、標準値以上であることを確認する。						*	絶縁抵抗計	測定結果の変化傾向の把握	
5	使用状態の確認	計測表示について標準計器と比較し標準値以内にあることを 確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
6	入出力特性の確認	入力(電圧、電流、周波数)、出力(電圧、電流)を測定し標準値以内であることを確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
7	蓄電池の確認	蓄電池の外観(電槽の温度、欠損、損傷、液漏れ、接続部の腐 食)を確認する。						0			
		蓄電池電圧を各セル毎に測定し、標準値以内であることを確認 する。						0	テ゛シ゛タルマルチメータ		
		蓄電池の内部抵抗を各セル毎に測定し確認する。						0	インピーダンス計		
		蓄電池の交換推奨時期を確認する。						0			
8	動作の確認	正常時における停止、運転、1号-2号切替の動作状態、表示、 外部警報を確認する。						*			
		保護動作時における各故障動作時の状態、表示、外部警報を確認する。						*			
9	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

⁽注) 原則として、12ヶ月点検以内は、装置が運転状態にて行う。3年点検は、蓄電池放電状態にて行うこととするが、停電補償時間が短いか、または蓄電池の劣化のため、点検時間が十分にとれない場合は、 仮設蓄電池の設置を検討する。

「個別点検」 6-3 直流電源装置 (テレメータKR用 (触媒栓付))

					点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認	標準値 (規定値) は試験成績書 を確認する。
2	環境の確認	運転環境(温度、湿度、埃、換気スペース、結露等)を五感及 び温湿度計にて確認する。						0	温湿度計	周囲環境を考慮した機能維持	アルカリ用、鉛用の保守用器具 は混用しないこと。
3	内部の確認	装置内の使用部品類を目視、触手、嗅覚、聴覚及び温度計で確認する。						0	放射温度計	装置の正常動作の確認 標準値(規定値)との照合	※印は3年点検時での実施内容とする。
4	絶縁抵抗の測定	交流入力、直流出力の絶縁抵抗を測定し、標準値以上であることを確認する。						*	絶縁抵抗計	測定結果の変化傾向の把握	
5	使用状態の確認	計測表示について標準計器と比較し標準値以内にあることを 確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
6	入出力特性の確認	入力 (電圧、電流、周波数)、出力 (電圧、電流) を測定し標準値以内であることを確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
7	蓄電池の確認	蓄電池の外観(電槽の温度、欠損、損傷、液漏れ、接続部の腐食)を確認する。 蓄電池の液面を各セル毎に点検し、適正値にあることを確認する。なお、不足の場合は補水する。 蓄電池電圧を各セル毎に測定し、標準値以内であることを確認する。なお、充電が必要な場合は均等充電をする。 蓄電池の比重及び液温をパイロットセル毎に測定し、標準値以内であることを確認する。なお、充電が必要な場合は均等充電をする。 蓄電池の比重及び液温をパイロットセル毎に測定し、標準値以内であることを確認する。なお、充電が必要な場合は均等充電をする。						0 0 0 0	デジタルマルドメータ 比重計、温度計		
8	動作の確認	正常時における、運転、停止の動作状態、表示、外部警報を確認する。 保護動作時における各故障動作時の状態、表示、外部警報を確認する。						*			
9	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

⁽注1) アルカリ蓄電池の比重

アルカリ蓄電池の電解液比重は充放電により変化はなく、比重は20℃で1. 20(許容範囲1. 17~1. 23)が標準値である。

「個別点検」 6-4 直流電源装置 (テレメータKR用 (MSE形等))

	1777// C 1	Participation of the state of t			点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ヶ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認	標準値 (規定値) は試験成績書 を確認する。
2	環境の確認	運転環境(温度、湿度、埃、換気スペース、結露等)を五感及 び温湿度計にて確認する。						0	温湿度計	周囲環境を考慮した機能維持	※印は3年点検時での実施内容とする。
3	内部の確認	装置内の使用部品類を目視、触手、嗅覚、聴覚及び温度計で確認する。						0	放射温度計	装置の正常動作の確認 標準値(規定値)との照合	
4	絶縁抵抗の測定	交流入力、直流出力の絶縁抵抗を測定し、標準値以上であることを確認する。						*	絶縁抵抗計	測定結果の変化傾向の把握	
5	使用状態の確認	計測表示について標準計器と比較し標準値以内にあることを 確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
6	入出力特性の確認	入力(電圧、電流、周波数)、出力(電圧、電流)を測定し標準値以内であることを確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
7	蓄電池の確認	蓄電池の外観(電槽の温度、欠損、損傷、液漏れ、接続部の腐食)を確認する。						0			
		蓄電池電圧を各セル毎に測定し、標準値以内であることを確認 する。						0	テ゛シ゛タルマルチメータ		
		蓄電池の内部抵抗を各セル毎に測定・確認する。						0	インピーダンス計		
		蓄電池の交換推奨時期を確認する。						0			
8	動作の確認	正常時における、運転、停止の動作状態、表示、外部警報を確認する。						*			
		保護動作時における各故障動作時の状態、表示、外部警報を確認する。						*			
9	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

⁽注) 原則として、12ヶ月点検以内は、装置が運転状態にて行う。3年点検は、蓄電池放電状態にて行うこととするが、停電補償時間が短いか、または蓄電池の劣化のため、点検時間が十分にとれない場合は、 仮設蓄電池の設置を検討する。

「個別点検」 6-5 直流電源装置(テレメータB型用)

	1				占松	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	点 (2) ケ 月	3 ケ	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認	標準値 (規定値) は試験成績書を確認する。
2	環境の確認	運転環境(温度、湿度、埃、換気スペース、結露等)を五感及 び温湿度計にて確認する。						0	温湿度計	周囲環境を考慮した機能維持	※印は3年点検時での実施内容とする。
3	内部の確認	装置内の使用部品類を目視、触手、嗅覚、聴覚及び温度計で確認する。						0	放射温度計	装置の正常動作の確認 標準値(規定値)との照合	
4	絶縁抵抗の測定	交流入力、直流出力の絶縁抵抗を測定し、標準値以上であることを確認する。						*	絶縁抵抗計	測定結果の変化傾向の把握	
5	使用状態の確認	計測表示について標準計器と比較し標準値以内にあることを 確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
6	入出力特性の確認	入力(電圧、電流、周波数)、出力(電圧、電流)を測定し標準値以内であることを確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
7	蓄電池の確認	蓄電池の外観(電槽の温度、欠損、損傷、液漏れ、接続部の腐 食)を確認する。						0			
		蓄電池電圧を各セル毎に測定し、標準値以内であることを確認 する。						0	テ゛シ゛タルマルチメータ		
		蓄電池の交換推奨時期を確認する。						0			
8	動作の確認	正常時における、運転、停止の動作状態、表示、外部警報を確 認する。						*			
		保護動作時における各故障動作時の状態、表示、外部警報を確 認する。						*			
9	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

アルカリ蓄電池の電解液比重は充放電により変化はなく、比重は20℃で1.20(許容範囲1.17~1.23)が標準値である。

「個別点検」 6-6 太陽電池 (テレメータ用)

					点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ヶ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	各部電圧電流測定	太陽電池出力電圧、電流、負荷電圧、電流、蓄電池電圧を測定 し、基準値以内であることを確認する。						0	自蔵計器またはテ スタ	装置の正常動作の確認 標準値(規格値)との照合	標準値 (規定値) は試験成績書を確認する。
2	蓄電池の確認	蓄電池の液面を各セル毎に点検し、適正値にあることを確認する。 なお、不足の場合は補水する。						0		測定結果の変化傾向の把握	メンテナンスフリーの蓄電池 (MSE等) は除く。 アルカリ用、鉛用の保守用器具
		蓄電池電圧を各セル毎に測定し、基準値以内であることを確認 する。						0	テスタ		は混用しないこと。
		蓄電池の比重及び液温をパイロットセル毎に測定し、基準値以 内であることを確認する。						0	比重計・温度計		
3	取付状況の確認	取付金具の変形、損傷及び異常な発錆、腐食、塗装の剥離状態等の確認を行い、ネジ部、ボルト類の緩み、脱落を確認する。 太陽電池の直射日光を遮蔽する支障木の有無を確認する。						0			
4	接続部の確認	接続ケーブル、コネクタ、端子の接続状態を確認する。						0			
5	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
6	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

「個別点検」 6-7 直流電源装置(交換機用(触媒栓付))

		电你衣息(又换成用(瓜妹住門))			点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認	標準値 (規定値) は試験成績書 を確認する。
2	環境の確認	運転環境(温度、湿度、埃、換気スペース、結露等)を五感及 び温湿度計にて確認する。						0	温湿度計	周囲環境を考慮した機能維持	アルカリ用、鉛用の保守用器具 は混用しないこと。
3	内部の確認	装置内の使用部品類を目視、触手、嗅覚、聴覚及び温度計で確 認する。						0	放射温度計	装置の正常動作の確認 標準値(規定値)との照合	※印は3年点検時での実施内 容とする。
4	絶縁抵抗の測定	交流入力、直流出力の絶縁抵抗を測定し、標準値以上であることを確認する。						*	絶縁抵抗計	測定結果の変化傾向の把握	
5	使用状態の確認	計測表示について標準計器と比較し標準値以内にあることを 確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ	-	
6	入出力特性の確認	入力(電圧、電流、周波数)、出力(電圧、電流)を測定し標準値以内であることを確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ	-	
7	蓄電池の確認	蓄電池の外観(電槽の温度、欠損、損傷、液漏れ、接続部の腐 食)を確認する。						0			
		蓄電池の液面を各セル毎に点検し、適正値にあることを確認する。不足の場合は補水する。						0			
		蓄電池電圧を各セル毎に測定し、標準値以内であることを確認 する。 なお、充電が必要な場合は均等充電を行う。						0	テ゛シ゛タルマルチメータ		
		蓄電池の比重及び液温をパイロットセル毎に測定し、標準値以 内であることを確認する。なお、充電が必要な場合は均等充電 を行う。						0	比重計、温度計		
		蓄電池の触媒栓交換推奨時期及び蓄電池の交換推奨時期を確認する。						0			
8	動作の確認	正常時における、運転、停止の動作状態、表示、外部警報を確認する。						*			
		保護動作時における各故障動作時の状態、表示、外部警報を確認する。						*		-	
9	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

アルカリ蓄電池の電解液比重は充放電により変化はなく、比重は20℃で1.20(許容範囲1.17~1.23)が標準値である。

「個別点検」 6-8 直流電源装置(交換機用(MSE形等))

. -	別点候」 0 - 6 直流	电似表直(文揆機用(MSC形寺/)	1		占烃	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	点接 2 ケ 月	月 3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認	標準値 (規定値) は試験成績書を確認する。
2	環境の確認	運転環境(温度、湿度、埃、換気スペース、結露等)を五感及 び温湿度計にて確認する。						0	温湿度計	周囲環境を考慮した機能維持	※印は3年点検時での実施内容とする。
3	内部の確認	装置内の使用部品類を目視、触手、嗅覚、聴覚及び温度計で確認する。						0	放射温度計	装置の正常動作の確認 標準値(規定値)との照合	
4	絶縁抵抗の測定	交流入力、直流出力の絶縁抵抗を測定し、標準値以上であることを確認する。						*	絶縁抵抗計	測定結果の変化傾向の把握	
5	使用状態の確認	計測表示について標準計器と比較し標準値以内にあることを 確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
6	入出力特性の確認	入力(電圧、電流、周波数)、出力(電圧、電流)を測定し標準値以内であることを確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
7	蓄電池の確認	蓄電池の外観(電槽の温度、欠損、損傷、液漏れ、接続部の腐食)を確認する。						0			
		蓄電池電圧を各セル毎に測定し、標準値以内であることを確認 する。						0	テ゛シ゛タルマルチメータ		
		蓄電池の内部抵抗を各セル毎に測定し確認する。						0	インピーダンス計		
		蓄電池の交換推奨時期を確認する。						0			
8	動作の確認	正常時における、運転、停止の動作状態、表示、外部警報を確 認する。						*			
		保護動作時における各故障動作時の状態、表示、外部警報を確 認する。						*			
9	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

⁽注) 原則として、12ヶ月点検以内は、装置が運転状態にて行う。3年点検は、蓄電池放電状態にて行うこととするが、停電補償時間が短いか、または蓄電池の劣化のため、点検時間が十分にとれない場合は、 仮設蓄電池の設置を検討する。

「個別点検」 6-9 直流電源装置(48V通信設備用)

. =	別点候」 0 - 9 直流	电你表色(480世后於浦州)	T		占松	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	点体 2 ケ 月	月 3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認	標準値 (規定値) は試験成績書 を確認する。
2	環境の確認	運転環境(温度、湿度、埃、換気スペース、結露等)を五感及 び温湿度計にて確認する。						0	温湿度計	周囲環境を考慮した機能維持	※印は3年点検時での実施内容とする。
3	内部の確認	装置内の使用部品類を目視、触手、嗅覚、聴覚及び温度計で確認する。						0	放射温度計	装置の正常動作の確認 標準値(規定値)との照合	
4	絶縁抵抗の測定	交流入力、直流出力の絶縁抵抗を測定し、標準値以上であることを確認する。						*	絶縁抵抗計	測定結果の変化傾向の把握	
5	使用状態の確認	計測表示について標準計器と比較し標準値以内にあることを 確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
6	入出力特性の確認	入力(電圧、電流、周波数)、出力(電圧、電流)、ユニット出力電圧を測定し、規定値以内であることを確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
7	蓄電池の確認	蓄電池の外観(電槽の温度、欠損、損傷、液漏れ、接続部の腐食)を確認する。						0			
		蓄電池電圧を各セル毎に測定し、標準値以内であることを確認 する。						0	テ゛シ゛タルマルチメータ		
		蓄電池の内部抵抗を各セル毎に測定し確認する。						0	インピーダンス計		
		蓄電池の交換推奨時期を確認する。						0			
8	動作の確認	正常時における、運転、停止の動作状態、表示、外部警報を確 認する。						*			
		保護動作時における各故障動作時の状態、表示、外部警報を確 認する。						*			
9	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

⁽注) 原則として、12ヶ月点検以内は、装置が運転状態にて行う。3年点検は、蓄電池放電状態にて行うこととするが、停電補償時間が短いか、または蓄電池の劣化のため、点検時間が十分にとれない場合は、 仮設蓄電池の設置を検討する。

「個別点検」 6-10 直流電源装置(48V通信設備用(AF型))

	33M(M)	加电你表值(40V題信放佣用(AF至/)			点栓	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認	標準値 (規定値) は試験成績書 を確認する。
2	環境の確認	運転環境(温度、湿度、埃、換気スペース、結露等)を五感及び温湿度計にて確認する。						0	温湿度計	周囲環境を考慮した機能維持	※印は3年点検時での実施内 容とする。
3	内部の確認	装置内の使用部品類を目視、触手、嗅覚、聴覚及び温度計で確 認する。						0	放射温度計	装置の正常動作の確認 標準値(規定値)との照合	
4	絶縁抵抗の測定	交流入力、直流出力の絶縁抵抗を測定し、標準値以上であるこ とを確認する。						*	絶縁抵抗計	測定結果の変化傾向の把握	
5	使用状態の確認	計測表示について標準計器と比較し標準値以内にあることを 確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
6	入出力特性の確認	入力(電圧、電流、周波数)、出力(電圧、電流)、ユニット出力電圧を測定し、規定値以内であることを確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
7	蓄電池の確認	蓄電池の外観(電槽の温度、欠損、損傷、液漏れ、接続部の腐 食)を確認する。						0			
		蓄電池電圧を各セル毎に測定し、標準値以内であることを確認 する。						0	テ゛シ゛タルマルチメータ		
		蓄電池の内部抵抗を各セル毎に測定し確認する。						0	インピーダンス計		
		蓄電池の交換推奨時期を確認する。						0			
8	動作の確認	欠相時及び正常時における、運転、停止の動作状態、表示、外 部警報を確認する。なお、欠相試験は検出をオープンとする模 擬試験とする。						*			
		保護動作時における各故障動作時の状態、表示、外部警報を確 認する。						*			
9	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
10	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

⁽注) 原則として、12ヶ月点検以内は、装置が運転状態にて行う。3年点検は、蓄電池放電状態にて行うこととするが、停電補償時間が短いか、または蓄電池の劣化のため、点検時間が十分にとれない場合は、 仮設蓄電池の設置を検討する。

「個別点検」 7-1 無停電電源装置(触媒栓付)

, ii	別点検」 (一1 無停)	電電源装直(<u></u>			点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0	,,	,,	,,	/,	,,		装置の正常動作の確認	標準値 (規定値) は試験成績書 を確認する。
2	環境の確認	運転環境(温度、湿度、埃、換気スペース、結露等)を五感及 び温湿度計にて確認する。						0	温湿度計	周囲環境を考慮した機能維持	※印は3年点検時での実施内容とする。
3	内部の確認	装置内の使用部品類を目視、触手、嗅覚、聴覚及び温度計で確認する。						0	放射温度計	装置の正常動作の確認 標準値(規定値)との照合	
4	絶縁抵抗の測定	交流入力、直流、交流出力の絶縁抵抗を測定し、標準値以上で あることを確認する。						*	絶縁抵抗計	測定結果の変化傾向の把握	
5	設定値の確認	制御電源電圧、出力電圧異常検出設定値を測定し、標準値内に あることを確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
6	使用状態の確認	計測表示について標準計器と比較し標準値以内にあることを 確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
		運転時間及びアラーム記録を確認する。						*			
7	入出力特性の確認	入力 (電圧、電流、周波数)、直流 (電圧、電流)、出力 (電圧、 電流、周波数)、直送 (電圧、電流) を測定し、標準値以内で あることを確認する。						*	デジタルマルチメータ		
8	蓄電池の確認	蓄電池の外観(電槽の温度、欠損、損傷、液漏れ、接続部の腐 食)を確認する。						0			
		蓄電池の液面を各セル毎に測定し、適正値にあることを確認する。不足の場合は補水する。						0			
		蓄電池電圧を各セル毎に測定し、標準値以内であることを確認 する。なお、充電が必要な場合は、均等充電を行う。						0	テ゛シ゛タルマルチメータ		
		蓄電池の比重及び液温をパイロットセル毎に測定し、標準値以 内であることを確認する。 なお、充電が必要な場合は、均等充電を行う。						0	比重計、温度計		
		蓄電池の触媒栓交換推奨時期及び蓄電池の交換推奨時期を確認する。						0			
9	動作の確認	正常時における、運転、停止、出力切替の動作状態、表示、外部警報を確認する。						*			
		出力切替における動作状態を記録、測定し、規定値内であることを確認する。						*	テ゛シ゛タルオシロメータ		
		保護動作時における各故障動作時の状態、表示、外部警報を確認する。						*			
10	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
11	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

アルカリ蓄電池の電解液比重は充放電により変化はなく、比重は20℃で1. 20(許容範囲1. $17\sim1$. 23)が標準値である。

(注2) 原則として、12ヶ月点検以内は、装置が運転状態にて行う。3年点検は、保守バイパス給電状態にて行う。

「個別点検」 7-2 無停電電源装置 (MSE形等)

		電電源装置(MSE形等)			点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認	標準値 (規定値) は試験成績書 を確認する。
2	環境の確認	運転環境(温度、湿度、埃、換気スペース、結露等)を五感及 び温湿度計にて確認する。						0	温湿度計	周囲環境を考慮した機能維持	※印は3年点検時での実施内容とする。
3	内部の確認	装置内の使用部品類を目視、触手、嗅覚、聴覚及び温度計で確認する。						0	放射温度計	装置の正常動作の確認 標準値(規定値)との照合	
4	絶縁抵抗の測定	交流入力、直流、交流出力の絶縁抵抗を測定し、標準値以上で あることを確認する。						*	絶縁抵抗計	測定結果の変化傾向の把握	
5	設定値の確認	制御電源電圧、出力電圧異常検出設定値を測定し、標準値内にあることを確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
6	使用状態の確認	計測表示について標準計器と比較し標準値以内にあることを 確認する。						*	テ゛シ゛タルマルチメータ		
		運転時間及びアラーム記録を確認する。						*			
7	入出力特性の確認	入力(電圧、電流、周波数)、直流(電圧、電流)、出力(電圧、 電流、周波数)、直送(電圧、電流)を測定し、標準値以内で あることを確認する。						*	テ゛ジ゛タルマルチメータ		
8	蓄電池の確認	蓄電池の外観(電槽の温度、欠損、損傷、液漏れ、接続部の腐 食)を確認する。						0			
		蓄電池電圧を各セル毎に測定し、標準値以内であることを確認 する。						0	テ゛シ゛タルマルチメータ		
		蓄電池の内部抵抗を各セル毎に測定し、標準値以下であること を確認する。						0	インピーダンス計		
		蓄電池の交換推奨時期を確認する。						0			
9	動作の確認	正常時における、運転、停止、出力切替の動作状態、表示、外 部警報を確認する。						*			
		出力切替における動作状態を記録、測定し、規定値内であることを確認する。						*	テ゛シ゛タルオシロメータ		
		保護動作時における各故障動作時の状態、表示、外部警報を確認する。						*			
10	機器本体の清掃等	機器本体の内外面を清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
11	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状態・数量等を確認する。						0			

⁽注) 原則として、12ヶ月点検以内は、装置が運転状態にて行う。3年点検は、保守バイパス給電状態にて行う。

「個別点検」 7-3 無停電電源装置(汎用小容量UPS 20KVA以下)

					点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎	1 ケ	2 ケ	3 ケ	6 ケ	12 ケ	使用測定器等	点検目的の概要	備考
			Ħ	月	月	月	月	月			
1	表示の確認	異常、障害表示の有無を確認する。	0							装置の正常動作の確認	取扱説明書を確認する。
2	蓄電池の確認	蓄電池交換推奨時期を確認する。						0			
3	ファンの確認	ファンの動作を確認する。						0			
4	機器本体の清掃等	機器本体の外面の清掃及び機器取付け状態を確認する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
5	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理、保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品類の保管状況・数量等を確認する。						0			

⁽注) 原則として、上記点検は、装置が運転状態にて行うこととする。

「個別点検」 8-1 カメラ設備(カメラ装置・機側装置)

					点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	外観の確認	ポール、据付架台を含む機器全体の塗装、錆、ボルト類の緩みを確認する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
2	電源電圧等の確認	チェック端子等で各部電圧等を測定し、基準値以内であること を確認する。基準値以外であれば調整する。						0	テスタ	装置の正常動作の確認、維持標準値(規定値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	
3	カメラ装置の確認 ・カメラケースの確認	ワイパの動作及び消耗程度を確認し、交換時期を確認する。						0		装置の正常動作の維持	
		ガラス面の異物付着の確認及び除去、清掃をする。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
	旋回装置の確認	上・下・左・右の動作がスムーズに行えること及び回転動作時 の異常音の有無を確認する。						0		装置の正常動作の維持	旋回式カメラ設備に適用
	・接続部の確認	ケーブル破損、端末処理の不具合、接栓の緩み、ネジの締め付け等を確認する。						0			
	・機器本体の清掃等	機器本体の取付状態の確認及び清掃を行う。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
4	機側装置の確認 ・避雷器の確認	各端子等に緩みが無いことを確認する。						0		装置の正常動作の維持	
	・接続部の確認	ケーブル破損、端末処理の不具合、接栓の緩み、ネジの締め付け等を確認する。						0			
	・機器本体の清掃等	機器本体の取付状態の確認及び清掃をする。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
5	図書類・予備品等の確 認	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
		予備品の保管状態・数量等を確認する(カメラ装置を含む)。						0			

「個別点検」 8-2 監視制御設備 (ССТV制御装置・操作器)

	(四种以前(COIV间种农臣 1末17亩7			点検	周期					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考
1	スイッチ等の機能確認	キーボードの動作を確認する。 ・スペースキー、キャラクタ、ファンクションキー、割り込みキー、その他制御キーの確認。 ・ライトペンまたはマウスの動作確認	0							装置の正常動作の確認、維持標準値(規定値)との照合 測定結果の変化傾向の把握	
2	電源電圧等の確認	チェック端子等で各部電圧等を測定し、基準値以内であること を確認する。基準値以外であれば調整する。						0	テスタ		
3	外観の確認	据付架台を含む機器全体の塗装、錆、ボルト類の緩みを確認する。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
4	CCTV制御装置の確認・ビデオレコーダ部の確認	カセットの出入、録画、再生、早送り、巻戻し、一時停止等の 動作及び動作中のモータ音異常の有無を確認し、消耗部品の交 換時期を確認する。						0		装置の正常動作の維持	
	・制御部の確認	保守点検対象品の確認を行う。(バックアップ電池、FANなど)						0		装置の正常動作の維持	
		停復電時の機能確認として、自動起動処理が正常に行われていることを確認する。						0			
		メンテナンス操作などの機能確認およびログ状態の確認をする。						0			
	・消耗部品の確認	機器本体及び各部のユニットなどの消耗部品の状態を確認する。						0			
	・避雷器の確認	各端子等に緩みが無いことを確認する。						0			
	・接続部の確認	ケーブル破損、端末処理の不具合、接栓の緩み、ネジの締め付 け等を確認する。						0			
	・機器本体の清掃等	機器本体の取付状態の確認及び清掃をする。						\circ		周囲環境を考慮した機能維持	
5	操作器の確認 ・モニタの確認	カラーバー信号を入力し、同期のかかり具合、外部調整動作、 ブラウン管の劣化度合い、色の再現性等を確認して、消耗部品 の交換時期を確認する。						0	標準信号発生器	装置の正常動作の維持	CRTモニタのみに適用
		モニタの外面及び内面の清掃をする。						\circ		周囲環境を考慮した機能維持	
	・操作器(CRT)の 確認	度合い、色の再現性等を確認して、消耗部品の交換時期を確認する。						0		装置の正常動作の維持	CRTモニタのみに適用
	・接続部の確認	ケーブル破損、端末処理の不具合、接栓の緩み、ネジの締め付け等を確認する。						0			
	・機器本体の清掃等	機器本体の取付状態の確認及び清掃をする。						0		周囲環境を考慮した機能維持	
	・モニタ(液晶ディス プレイ)の確認	輝度、色純度、画面位置サイズ調整、色ずれの確認をする。						0		周囲環境を考慮した機能維持	液晶ディスプレイのみに適用
6	図書類・予備品等の確	図書類が整理・保管されていることを確認する。						0		障害時の備え	
L	認	予備品の保管状態・数量等を確認する。						0]	

「個別点検」 9-1 電子型交換装置 (1/2)

	がが後」 3 1 电力:				点椅	间期	1					
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	ケ	ケ	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備考	
1	システム状態確認	システム運転に必要な状態及び環境状況の良否を下記により確認する。 (1)各種冷却ファンの確認ファンの動作を目視確認する。また、ファン回転時の異常音有無の確認をする。 (2)時刻表示確認及び調整時刻を目視確認する。(ディジタル電話機、中継台等の表示を確認する) (3)表示確認システム運転状態表示(ランプ)により正常性を目視により確認する。 (4)各種パッケージのアラーム確認各種パッケージのアラーム表示を目視により確認する。(交換機の扉を開けて確認する。)								装置の正常動作の確認 周囲環境を考慮した機能維持		
2	内線電話機の確認	動作状態及び外観確認をする。						0		装置の正常動作の確認	通常運用で使用していな 話機を対象。(災対室の電 等)	_
3	フロッピィディスク 装置の確認	フロッピィディスク装置に付着したほこり、磁気ヘッドに固着した磁気粉ほこりを取除き清掃をする。						0				
4	フィルタ確認	フィルタに付着しているほこりを取除き清掃をする。						0		周囲環境を考慮した機能維持		
5	配線盤確認	配線盤のジャンパ端子の配線、ハンダ付等の状況を目視により 確認する。						0				
6	世代管理 (局データ管理)	運転ファイルの世代管理(2世代)として保存してあるか確認する。						0		障害時の備え		
7	保守コンソール確認	保守コンソールを下記により確認する。 1. 本体及び周辺機器の清掃及び塵等の付着がないことを確認する。 2. 自己診断テスト 3. プリンタ動作テスト 4. 総合動作テスト							クリーニンク゛フロッヒ゜、確認 ディスクフロッピ 保守コンソールプログラム	障害時の備え 装置の正常動作の確認		
8	時計装置の確認	装置の時刻が正常であることを確認する。						0		装置時刻の正常性維持		

「個別点検」 9-1 電子型交換装置 (2/2)

			点検周期									
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
9	自公接続、公自接続の確認	・公自接続の確認 任意の自局収容の電話機から該当自局自動交換装置の公自接 続用公衆番号に局線発信し、公自接続可能音またはトーキを聴 取後、他事務所のトール番号をPB信号にてダイヤルし、RB T聴取または通話により良否の確認をする。 ・自公接続の確認(他局との連携が必要) 他局の任意の電話機から該当自動交換装置の自公接続用トー ル番号(8X+0+公衆番号または7XX+0+公衆番号)に内線発信し、 自公接続を行う。公衆網からのRBT聴取または通話により良 否の確認をする。						0		自動交換装置が提供する自公接 続、公自接続の設定及び正常性の 確保/維持		
10	機器本体の清掃等	交換機の架内、架外に付着しているほこりを取除き清掃する。						0		周囲環境を考慮した機能維持		
11	図書類・予備品等の確 認	取扱説明書、試験成績書及び予備品が保管されていることを確認する。 また、内線ダイヤルクラスリスト、外線ダイヤルインリスト、ルートアドバンス設定リスト等の図書と現状設定データの照合及び修正をする。						0		障害時の備え 装置の設定データ確認/修正 正常動作の維持		

「個別点検」 9-2 簡易型交換装置

	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法等	点検周期							1		
No.			毎	1	2	3	6	12	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
			日	ケ 月	ケ 月	ケ月	ケ 月	ケ 月				•
1	運用確認	発着信通話試験	0							装置の正常動作の確認		
		内線、私設線、局線の通話状態を聴話にて良否を確認する。								周囲環境を考慮した機能維持		
		各種信号音確認	0									
		各種信号音を聴話にて良否を確認する。										
2	接続機能試験	局線、私設線、内線の発着信動作及び電源断の場合の発着信動						\circ		装置の正常動作の確認		
		作の確認をする。										
3	動作状態の確認	可聴、可視による各種信号音、表示状態の確認をする。						0				
4	線路及び電話機確認	ケーブル、コネクタ等の確認及び動作状態を確認する。						0		周囲環境を考慮した機能維持		
5	機器本体の清掃等	各端子、接続部の確認及び筐体、架内の清掃をする。						0				
6	図書類・予備品等の確 認	取扱説明書、試験成績書及び予備品が保管されていることを確 認する。						0		障害時の備え		

「個別点検」 10-1 鉄塔・反射板

				点検周期								
No.	確認事項の概要	作業の実施範囲、具体的方法	毎日	1 ケ 月	2 ケ 月	3 ケ 月	6 ケ 月	12 ケ 月	使用測定器等	点検目的の概要	備	考
1	外観の確認	部材の変形、損傷、溶接部の異常等を点検し、表面の塗装剥離、 発錆、風化程度等の確認をする。		Л	Л	Л	Л	0		施設の安全性、正常性の確認及び 維持		
2	ボルト類の確認	ボルトの緩み、脱落を目視、手締等で確認点検する。						0			50%/年とし、2カーる。	年で完了す
3	避雷設備の確認	突針の脱落、緩み、導線の切断等を点検し、接地端子への接続 を確認する。						0				
4	基礎の確認	コンクリートの風化、沈下、変位等を目視により確認する。						0				
5	安全設備の確認	墜落防止、塔昇防止装置の設置状況の確認をする。また、塔上 の不要残留物 (工具、器具等) がないことを確認する。						0				
6	敷地状況の確認	フェンスの傾斜、損壊、敷地内及び造成部等の状況確認をする。						0		周囲環境を考慮した機能維持		
7	敷地内の清掃	敷地内の整理、清掃をする。						0				
8	図書類・予備品等の確 認	図書類及び予備品(昇降器具含む)が整理、保管されていることを確認する。						0		修理、障害時の備え	事務所、中継局等へ	保管